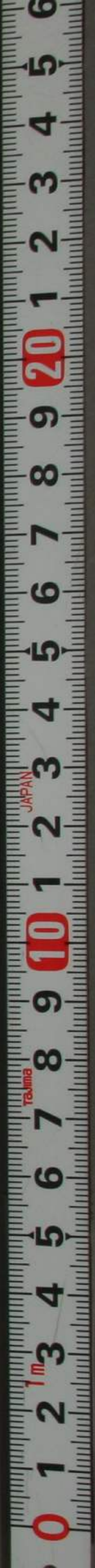


右様ちよめ

政

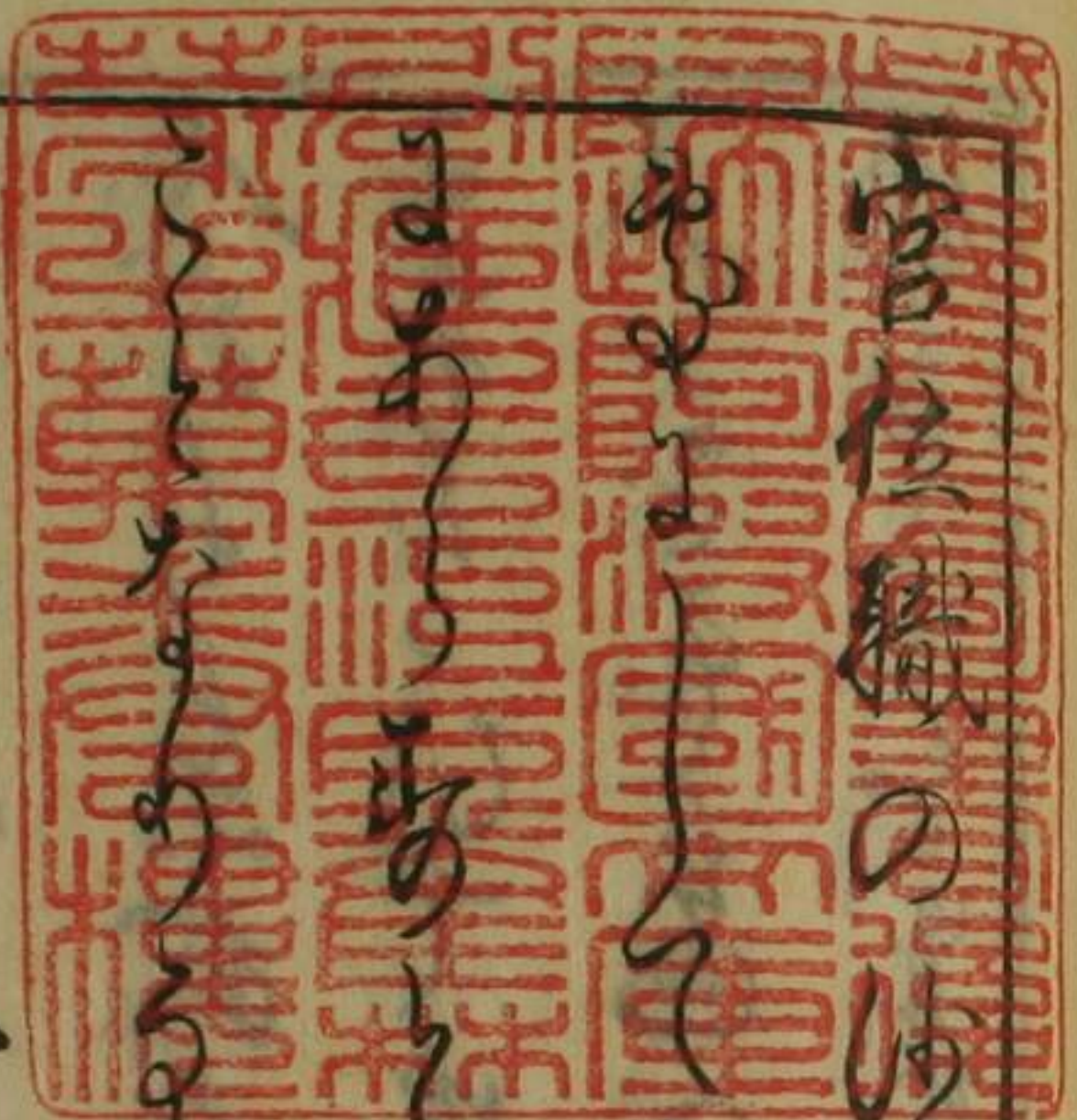
0

73
6249



73
6249

官位職のゆ...
 下の...
 あり...
 あり...
 あり...
 あり...
 あり...
 あり...
 あり...
 あり...
 あり...
 あり...
 あり...



初〜〜〜のあ〜〜の侍
且暮よ〜〜の〜〜の侍
ひよも〜〜の〜〜の侍
て侍人の〜〜の侍
おる〜〜の侍
元禄十とせあるりぬとせの秋
長月の〜〜の秋
さの〜〜の秋
と〜〜の秋

官職知要卷上目録



去五味均平蔵

百官監觴

官位相當

唐名大意

於諸官長官次官判官主典

於諸官正官權官有無不同

官與職一同

攝政 附 復辟

關白

親王 附 諸王

太政大臣

左大臣

右大臣

内大臣

准三宮大臣

儀同三司

參議 附宰相之事

公卿并諸臣

堂上地下

文位散位勳位

大中納言 附正官權官

以八省配唐官之意

諸大夫并侍

文官武官 附文武兼帶

女房官品

上卷目錄終



官職知要上

百官監觴

百官は天子に侍ふ内外の諸官なり

必百れ負教あくつうざれども百寮は儀あて中つなり

又百を教のむらさ儀して内裏と百敷しと一と百官若

彦成まう終ゆへありと百寮訓要のみ終つりそれ官を

人と用るれ和あり君は居とあししと官をさるまゝあり

はち己とけりりて職をうく官其人はつうざれが職する

凡治とあをれなる人と用りよあり人をとらあられらハ

官と仰せらるるありと云く凡百官は監饗神代は天兒屋根命

津速産靈神 天太玉命 高皇産靈神 人代りありて神武天皇清宇

孫中臣氏祖 天種子命 天兒屋根命 孫 天富命 天太玉命 たたらうつくつとくし先

天種子命 天兒屋根命 孫 天富命 天太玉命 命子 たたらうつくつとくし先

其後食國政申大夫 宇麻志麻治命 天日方 景行天皇乃

河字にありて武内宿禰 孝元天皇曾孫父武緒心命也 棟梁の臣

成務朝は始々大臣は仰せ又仲哀朝木伴武持 道臣命 七世父

命也 健日 仰せ大連は仰せありとけりわらう孝徳天皇

河字左右大臣内臣乃官并八省百官 詳記之 比等是也

文武天皇大寶元年正一位藤原太政大臣 淡海公不 勅とらるる

律令 謂律以懲肅為宗 今以勸誡為本也 是 是れは官位職負二令卷れしめ

らうく法ををありありしり 承歴代連絡

てたこかりて之指も依世令條の官位減省 治ひ時

ありさひくありする官とく久らるありと令かれ官と

いふ官職秘抄職系抄ありみゆそれ官を仰せらるる公書と

除目といひ位次の方とらるる叙位といふ蓋今の世叙位除

目ハキ多くく消息宣下なりとらり官職難儀といふ書云

消息宣下とハ職事 蔵人 口宣とらるる消息成るる上卿

よしてまらる上卿 其日上首 又外記は消息をて宣下と

あゆみ消息案下と申なり件口宣の録は宣案と
あはれと不承案日の人の案又もいくと不承とらむと
有り是正文ハ御記局よりゆくる職事より案とら
して其人ははらりて之位の内記局よりゆくる官方の
西文も僧官の御務口宣も御務とゆりゆりて大信もいありハ正記も
宣命より任じりて大中納言衆は初もはつりあがりて
其今の宣命ものも御記局ハ除目は初もはつりあがりて
初もはつりあがりて大信もいありハ正記もいあり
此の書とありとありとありとあり

官位相當

位階ハ人ハ尊卑と申る列なり階者級也陛也登堂道也
又梯也如梯之有等差也。上宮太子十七箇條憲法曰群卿百寮以
禮爲本其治民之本要在於禮上不禮而下非齊下無禮以必
有罪是以君臣有禮位次不亂百姓有禮國家自治と云り
凡位階蓋觴推古天皇御宇冠位十二階大德小德大仁小仁大禮
小禮大信小信大義小義
大智 冠小大建武 初位又 各立身 又比く十九階冠織山
中大小上小上小
中大小上小上小
中大小上小上小
御宇二十六階冠織山
中大小上小上小
中大小上小上小 織山
中大小上小上小
中大小上小上小
天武天皇御世十二階織山
中大小上小上小
中大小上小上小 織山
中大小上小上小
中大小上小上小 織山
中大小上小上小
中大小上小上小

織山 中大小上小上小 中大小上小上小 中大小上小上小
織山 中大小上小上小 中大小上小上小 中大小上小上小
織山 中大小上小上小 中大小上小上小 中大小上小上小

明位二階。淨位四階。每階有大廣。并四十八階。正位四階。直位四階。并十二階。以前諸王以上之位。勤位四階。發位四階。追位四階。進位四階。每階有大廣。并四十八階。以前諸臣之位。此をめぐらして是と位階のり

して文武朝冠の位とくらめて易りて位階と並び親王ハ一品より四品までを階ぐ。臣下ハ正從一位より大少初位上。下れ三十階。汝制して百官となり。並其位と配。相當と定。又五位已下ハ内階外階と。且勲位十二等と定。のりこれ相當とハ官と位と此對用の所とめなり。對用せざれば不相當と。不相當不相當之事。位署書れざればなり。ひあり。律古相當の官位或後世格制あり。あつてめあふもあり。又古今

かゝるべし。れもあり。官位令と代々の格制あり。務められ。職原抄よの系。不令と格との執あり。然ども口傳を交され。ん其さ。ゆゑに事ゆゑとなり。

唐名大意

諸官に唐名と配合と事あり。一へよりなり。二ハ。次いんとあれ。ハ本朝令と唐開元令と。とて書あり。と。の公式令也。天皇。皇帝。陛下。至尊。太上天皇。乃。沙。号。清。唐。名。なり。又諸官の号。唐名の配合あれども。公事。政事。に。りて。志。わ。か。る。名。と。用。ひ。あ。ふ。な。り。但。僧。尼。度。牒。

今世 又詩文之類ごとくは、^{絶罪}唐名と考ふるに、^{今世}凡唐名と
 中華代に於て官号と假令本朝諸官に配するの如き三公と大師
 大傅大保とハ周世の官号なり。相國左右丞相ハ秦漢世も
 官号あり。周世ハ文事と武事とありて、^{周世}秦漢以來武事
 ありて、^{和漢}事毎ハ必規矩と合するごと
 くあり。譬ハ以御史大夫如當大納言又彈正尹余も又此と
 ありて、^後爰ハ泰議元大辨橋廣相卿朝官當唐官略鈔と依り
 あり。又嶋田忠臣百官唐名鈔と依りて、悉諸官に配合せり
 蓋此兩書今迄多く所見なく、拾芥抄も亦なと令く唐名之部

の考ありて、^{所見}あるやうに、^書亦あつたりや
 あり。いみじくも故實と云はれ、^書目二重三重小
 と引用するの如きは、^事の次とありて、^又云
 今世可教方へ書通より、^元唐名代とありて、^今世
 ことり是其の如きことあり。是れ本朝乃官
 号をりて、^異朝の官号と用りて、^豈なアふべきは
 あり。又唐名と云はれ、^強わく、^しるは、^いは、^はる
 ことあり。

諸官より長官次官判官主典文字各お終り

職原抄云凡諸官より長官次官判官主典あり假令太政官

當官舎者統八省及諸國大臣と長官より納言と次官より少納

言辨を判官より史外記次主典とと餘を准と

とみより長官和名加美次官和名須ヶ判官和名萬津利古止主典和名依官

各司別四等也或又三等ありとつり蓋其司

りつめ各文字のかつりあり○神祇官より伯長官なり

大副少副より小次官あり大祐少祐より判官あり大史

少史より主典なり以大少分高各官号とまこと假令神祇官

神祇伯神祇大副神祇少副神祇大祐神祇少祐神祇大史

神祇少史とあり余又効之○八省にハ中務省式部省治部省

大蔵省卿大輔少輔大丞少丞大録少録なり○彈正臺よりハ尹

大弼少弼大忠少忠大疏少疏○中官職○春官坊○四職

右京職等よりハ大夫亮大進少進大屬少屬○諸寮よりハ圖書寮

内蔵寮總殿寮陰陽寮内匠寮大學寮雅樂寮公蕃寮諸陵寮主計寮

主稅寮木土寮大炊寮主殿寮典藥寮掃部寮齋宮寮九馬寮右馬寮

兵庫頭助允大少或大屬少屬已上各四等也○諸司

正親司内膳司造酒司正依令史但内膳司よりハ正と奉膳と差別

采女司主水司東西司高橋氏奉膳又主膳監と正依令史也主殿署主馬署よりハ

他氏正云云

首令史の二を用也

自主膳監至主馬署春官坊官

以上諸司各次官なり○齊院

司○勘解由使○鑄錢使○造寺使ハ直ニ長官次官判官主

典の字ナリ○修理官城使○防鴨河使○施藥院使トモニ使ト

カコトシテ判官主典也是又次官ナリ○左近衛府ヨシ大將

少將將監將曹○右衛門府○右兵衛府ハ督佐少尉少志

○太宰府帥○大貳○監○典○鎮守府將軍副將軍軍監軍曹

○諸國守介掾目依國ニ分テ大少權○郡司大領少領主政主帳○家令

令知家事大從大書吏○内侍司尚侍典侍掌侍但女史者

女孺堪任者為之云餘女司以下略之ヲ

於諸官正官權官有無不同如何

權官も正官の輔依なり但座次ハ不依正權位階ハ依り

ありあり延喜式部式云凡正負之外特任權官者不論正權依依

階次トミテ諸官トモ小職掌多官者置權官輔正官

益閑官トシトモ或被任圖書權頭大炊權頭織部權正之例有之故

職原抄内藏寮篇云諸寮權頭中内藏木工尤右馬殊為宜云又

大學寮篇云凡諸寮頭權官有無不同云是内藏木工尤右馬者必權

頭有之其外有無云寸或臨時權官あり云内藏木工

尤右馬權頭ト殊為宜之言也猶權官有無委職原抄ニ依り

清和天皇幼主の時ナウジ忠休公

良房是也

御外祖ゴウソと成あひ

れ事なりかりそあもそれより攝家れ御流なりてなり

ぬりぬり御成人の時ミコト攝政とみりて

こりあり猶みりて賞シヤウとて攝政より准と

宣下なり事ありねりんシ中へりて御なり

とて攝政復辟奏とてなり復フキとて辟ハキ君キミなり

と君に之とて心なり凡攝政關白も大臣兼之カミ或去テ大臣

職と帯オビせりて寛和以来之例なり

關白とハ

同書云右乃てすくゆり天皇御成人の時ミコト攝政

とハ關白カンパクとてなり是ハ昭宣公セウゼン基經キキウ是也

異朝のむりも委職原抄ウヂノマシとてゆり攝政關白とて

大職オホシヨクとてなりかきず一座イツサの宣旨ノノシとて第一ソウジツ者モノ

一人イツヒトとて宣下ノノシあはれ一人イツヒトとてあり同字あり

一人イツヒトとてハ天子の事なりとてあはれ一人イツヒト乃事と一人

とてハ惟とまりて事なりとて事なりとて事なり

とてあひの事なりとて又太閤タクワンとハ御息ゴシヨクとハ關白と

とてハ事なりとて事なりとて事なりとて事なり

禪太閤とやらなると中略しとにらとみへり

親王シシ附諸王シシ

繼嗣ケイニ今日イマ九皇ススガ兄弟ケイテイ皇子ワタシ皆為親王ト云云々云親王ト云親王ト云位

一品イツホシ二品ニツホシ三品サンツホシ四品ヨンツホシ也叙品レツホシされとハ無品ムツホシといハ異イナ位チ

云ハ五品イツゴホシにありといハ甚シあやしきりいんイとされハ

いハへヘ子コ親王シシハ黄衣ワウエ無位ムツホシ着キあふア又官ウチ或ハ中務ナカウカサ

卿キョウ式部シキブ若ニシ公キミ或ハ彈正タンシヤ尹イン太宰タイサイ帥シュウ受領ジュレイハ上総ウツノミ太守タイシ上野ウツノ太

守常陸モリノカミ太守タイシありアリとれども今世イマノヨ尹イン帥シュウ太守タイシにハ任シじシぬと

ころコハ又内親王ウチノシシとハ妃宮ヒメミヤの成ナリあふとトハ法親王ホウシシと法中ホフチュウ

いイくクあアらラなナりリそソれレとト若別ニシけりケリ法ホウがガ家ケのノあアまマのノ俗名ソクナ

して親王シシ宣下センゲありアリとトして法ホウがガ家ケのノあアまマのノ入道ニウダウ親王シシとト

く親キ擗ガよヨいイのノあアまマのノ法ホウ出家ウチガキ以後イコノチ宣下センゲしシつツとトハ法親王ホウシシとト

なりナリりリなナらラくク入道ニウダウ親王シシとト其ソノ法ホウ義ギ勢セイありアリとト表オモテ

向ムカヒ法親王ホウシシとトハハ中ナカ御ミ勿ナ備ヒこコとト今天子イマノミコのノ皇子ワタシ弟ケイテイ兄ケイテイ也ト云

てもトモなナらラくク二世ニセ三世サンセのノ出デ未ミあアらラずズとト親王シシ宣下センゲゆユらラハハ令條レイジョウと

叶カナぬヌとトあれレどド久キウくクつツれレどド但タつツきキもモ天子テンシのノ

程ハジおオのノ号ナヅケしてシテ宣下センゲあアらラずズとト官職ウチノシシ

難儀ナニギとトハハ又マタ諸王シシとトハハ一世イチセ二世ニセとトしてシテ親王シシのノ宣下センゲ

となく源の姓もたまうと諸王とよみ叙位の長ハ
王卿は名別をふふ似たり蓋位袍乃命あり長屋王^{ナカヤ}金鹿王^{カシカ}
乃教之二世二世にも源姓と稱りてハ可く人臣なり
源信公^{ニホト}融公^{トホル} 嵯峨二世^{サエガ} 等の類なり

太政大臣

職負令曰太政大臣一人師範一人儀形四海^{イキニシ}經邦論道^{ケイホ}變^{ハル}
理陰陽無其人則闕矣^リ天智天皇御宇皇子大友とあり
くくめくくねく伊也其後天武帝皇子高市親王^{タカイチ}
と伊のあふ大友高市の皇子ハ直任なり其外ハ左大臣

轉任一あふ又右大臣内大臣准大臣^{イニシ}儀同三司^{ギトウサンシ}の事あり

次第とるごとく車任とる例あり稱徳天皇の
御宇道鏡禪師ハ法師めて是より後希代不思儀此事
あり凡太政大臣にも攝家清華の御方より作らるる
いみへさかぬ人々も是にゆるりハ何れもあつた
又攝關のうへよりハあつて總摸とらばり先さぬ
あり但清花にハおあつたあつたをりハ
官職難儀よりあり

左大臣

同令曰^{キニ}右大臣一人^{ツカサトルウリ}掌^{シユウム}統理^{ラフ}衆務^{モチ}舉持^{カウモク}綱目^{シユウ}惣判^{シユウ}庶事^{ラフ}云云

孝德天皇御宇^{アベ}阿倍内磨^{ウチニロ}を^シつ^クり^メく^シほ^シる^コ

官職難儀曰^{モロクノクジ}當官ハ諸公事^シ以^テなり^シ一^ノの^上 ^{〇〇}

〇〇と^シ上^ノ卿^ノと^シ中^ノ卿^ノ又^シ殿上^ノ別當^ノ ^{藏人所}別當也^ノ ^イたり^タる^ルた^ルふ

若ハ右大臣關白^ノと^シ内^ノ上^ノ別當^ノと^シ次^ノの^大臣^ニ與^テ奪^{アリ}あり

何^レと^シも^シ關白^ノ萬機^ノの^政と^シ輔^佐一^ノと^シり^タる^ルあ^リて

諸公事^ノな^らず^ニな^らず^ニい^はら^る奪^{アリ}あり^テ但^シなり^シを

〇〇^ノ叙^位除^月れ^ハ執^事節^會の^内を^シ

勤^ハあ^らふ^ル又^シ勿^レ端^ナり^但避^テる^ルも^シな^らば^ハい^はら^る

ゆ^ゑに^シて^ハ右大臣^ノ一人^ノ掌^テ統^理衆^務舉^持綱^目惣^判庶^事云^云

〇〇^ノ叙^位除^月れ^ハ執^事節^會の^内を^シ

勤^ハあ^らふ^ル又^シ勿^レ端^ナり^但避^テる^ルも^シな^らば^ハい^はら^る

右大臣

同令曰^{キニ}右大臣一人^{ツカサトル}掌^{シユウム}同^ノ右大臣^ノを^シつ^クり^メく^シほ^シる^コ

倉山田石川磨^ノと^シり^メて^シほ^シる^コ

難儀曰^{モロクノクジ}右大臣乃^シと^シり^メて^シほ^シる^コ

右大臣^ノ同^ノ右大臣^ノを^シつ^クり^メく^シほ^シる^コ

に作らるゝつねと例あり是も按家清花の人位也但
 びりりゝもあとのつねと例ありはりりゝをま
 じつこの人かぬりたるハ入道カキ右大臣ミナモト
 公マモロ條サツ公ありはりたると
 けとのめをも又懐意ダクなくゆい昔より立ちりるをを採
 せゆりむ 聖代のもはらけとやんさるやとみたり

ナナダイジ
 内大臣

同難儀曰奉行ブギキとももカ右大臣よほのトカ右大臣さる
 わるハ内大臣なりとてとて天智天皇御宇タチチ大織冠オホオリカ
カミタリ公ミナモトみたりまらねどもこの所はを位カ右大臣ののみり

ゆりゝ其後百八年ヤウをさる此官減ヘリゆゝあつとをさる
 文武天皇御宇今修を定まらねり内大臣ハ官位令と
 のせあつと光仁天皇御宇寶龜八年に藤原良継ヨシツグ公同十
 年に藤原魚名公任ササキ之故令外官とやなり此はびハ其位
 右大臣の次にせらぬとゆら今カ右内ミナとやなり但有
 太政大臣之時任内大臣タチ頗似無其謂オホニキ云クニ此官ハ攝家清花
 の人ぬらふ或清花れ余流はも何とて家或諸家の人と
 是をもぬらふぬらり頗面目オホメなりさるゆゑとみされ人
 のゆらるハ遊ウツシ遊ウツシのことなりとみたり

准三宮大臣

天皇太后宮皇太后宮皇右宮の三宮は准トク大臣ト上

は猶年官年爵封戸或は給りたるなりそは年官とハ

春除目チモク春除目日之縣召除目依被任諸國司也チモク諸國掾一人目一人

史生三人秋除目シキウ秋除目日之京官除目也本儀自三月シキウ内官免又

とあふ年爵ニシク叙位ジキ正月五日被叙爵ジキ從五位下也一人と給り

かりそ給は給りしとハ伊あふ封戸とハ是民がみ

く百姓の居としと一戸と一戸の長十丈廣

五天此封戸千五百戸ラ或減五百戸ラ給ひと或田租或調庸とあて

らぬ此准三宮は依ハ貞觀十三年より忠臣公ふけり

爾來或當官大臣或前官大臣或前攝政關白皆例あり又

於南朝北島入道大納言親房卿と准三宮先任准大臣宣下あり

かり又女房法中等と准三宮宣下ありあはと准三宮と

と又中略しと准右とふかり

儀同三司

職原抄に委みとる大臣は昇へと人エとて沉淪をる

りくさりくまら准大臣可令朝奉のり宣下とる也

准大臣監觴ハ文武天皇太寶三年ハ三品刑部親王天武天皇第九皇子也

為知本政官事聖武天皇天平九年又鈴鹿王 高市親王 又曰

是准大臣のころめ御きく一條院御宇寛弘五年帥内大臣

伊周 仲開白道 ともて大臣に准じあふ此時自稱し儀同

三司と稱せし系是より儀同三司とせし其後久しく

後宇多院御宇弘安七年前大納言從一位源基具とのりて

宣下せらる此河其位前内大臣公親公 右大臣實 とあり准

大臣上り位階とゆりては後勿備なり抑准大臣を當官

たるなるる前官とるべしやのり弘安のころ官底 謂太政官

也ころのころ多し前官とるべしやのりと云又云

不案内の人の大納言を從一位に叙しあふより儀同三司

のりよむりし必從一位の人なりはとあり伊周は

從二位とてあふ正三位はと成あひたり例もあり有

きととしく准大臣可朝奏のり宣言と下されありそ

儀同三司としてゆれ宣下あふ一地位はとあり同事と

中いあふりて程くりての官職難儀よみたり

大中納言 附正官權官後世無差別事

職員令曰大納言四人掌参議庶事敷奏宣旨侍從獻替 格曰

慶雲二年省二人為正員二人更置中納言二人以補大納言不足

仍中納言、令外官也。然而後世各負數加増あり、蓋是正員之外
 一々權、大中納言より凡權官轉正の事、餘官轉正之例と
 同し。其中任大臣同日轉正とあり、又無任大臣之年轉正もあり
 可依時宜也。但近及光嚴院御宇、曆應二年正一人權九人あり、
 後光嚴院御宇、文和之比より一向無正官、皆權官也。其意尤深。
 公卿補任と勅あり、一説當時大中納言ハ皆權大納言、權
 中納言に轉正とて、正大中納言ハ轉正とあり、そのありしハ
 權と喚ぶる、只大納言中納言ニヤ也。そのハ任大臣、節會を行
 づ、何第一第二の大中納言正は轉正にほさる、ね、何と轉正の

又或人説とては、正大中納言ハ任大臣の節會ハ何
 ごとよ、宣命れうらよのセ、何とてハ正官なり、今世任大臣の
 節會あり、そのハ皆權、大中納言あり、そのりや、何とて
 ぞ、其ハ宣命レのセ、何とてハ正官、權官とあり、何と
 赤議以上あり、何とてハ赤議も、今權赤議とや、何とてハみか、此
 事、何とてハ、何とてハ、何とてハ、何とてハ、何とてハ、何とてハ、
 一透説とたく、徒とゆ、何とてハ、何とてハ、何とてハ、何とてハ、
 任大臣、事當日仰宣命、上大臣奏宣命、
 奉内弁、仰後可行、奏草及

清書如常給參議以上皆載此宣命餘官不然以云是任大臣
同日なればかづのどく猶正權のついでと載らるあり
其證如左

天皇 我 詔肯 止 勅 御命 親王 諸王 諸臣 百官

人等 天下 公民 衆聞 食 止 宣 從 一 位 藤原 冬 教 朝臣 者

朝廷 乃 重臣 棟 梁 乃 匡胤 柳 而 萬機 巨細 賜 布

依 天 右大臣 乃 官 任 賜 者 次 正 二 位 藤原 光 經 朝臣

乎 權 中 納言 乃 官 任 賜 布 勅 御命 衆聞 食 止 宣

建武元年十月九日

右宣命の文所見はゆるとてさるゝぬ猶公卿補任さむひの
光經卿權中納言なり然則正權の依任大臣の宣命に
と別よりゆゑなり或人問ひしに中少將は正權あり余
世無正官のみは權官は如何なるかと任大臣の宣命よりのさる
轉正とてゆゑなり彼迂説の人よにたつるなり

參議 附宰相之事

參議を令外官也文武天皇大寶二年五月勅從二位大伴宿禰
安磨正四位下栗田朝臣真人從四位上高向朝臣磨從四位下
下毛野朝臣古磨小野朝臣毛野令參議朝政云云これ參議の

監觴なり職原抄曰サシギハシ參議者諸臣之中四位シヨシノ已上有其才之人
ウキモツテ奉勅參議官中政之意也故非正官ニハラス然而除月任之モ又例也四
 位任之者スレト猶稱其朝臣三位已上稱姓朝臣也ハシヨシハシ云所謂某朝
 臣姓朝臣とは是公事クシにハふりて四位參議三位參議と稱
 ども〜其品ニチと〜るナレナ呂名あり假令四位のども〜高向磨
 朝臣三位已上ハ高向朝臣磨とめと候なりと〜れと位署
カキ書の中と〜ゆるハ不可然ルなり古来〜り位署書のと〜ら
 攝政關白大臣已下皆姓尸名字シマツジと書つてもあふ〜官位の
ウキカケ書處〜ハ相當不相當ウキカケと〜ら〜り某朝臣姓朝臣は事文ウキカケ

位署書の事ウキカケはあ〜と其證國史ウキカケ令格式の位署見たり
 又以參議稱宰相ウキカケと〜人〜不審フシシやら〜之本參議宰相ウキカケ
 は公卿已上ウキカケ稱ありい〜とされハ職負令曰大納言四人掌參議
ウキカケ庶事ウキカケ又公卿補任所見前大臣以下前參議以上并散位二三
ウキカケ位且之非參議是等政事ウキカケはゆ〜り〜るゆ〜り又國史
 所見大臣公卿と〜る〜諸宰相と〜り〜る今參議
 と宰相と〜り參議ハ正官ウキカケはあ〜るハ其官号なり故
 大寶乃且參議朝政ウキカケとの以勅語其官名と〜り仍宰相名号
 かのつ〜歸此參議ウキカケ云凡參議ハ攝家清華の人を任〜

のみども是大臣起居之時キキヨ參議平伏あり但着直衣則不平伏イフク
云此平伏と云くはさうあ之故只諸家人ハクニシ孫侍ハクニシのみこ
其中ナ以四位ラキボ參議規模ラキボと云れ三位ミタはミタ等と云してナキ
任シせらるゝ所之官職秘鈔曰參議有七道藏人頭大辨近衛中將
有ル年勞シ充中辨レキフ式部大輔ノ為ル帝王師者七箇國合格受領散三位
等也と云ふレなり

以八省配唐官之意

中道隆關白曰王者之御天下也兼天建官象地分職云凡八省を内
周禮六卿を配ハク外二省中務省 大藏省くクて被立テ之云是と異朝

准據シて可備シ太政官官負歟然本朝三公者在太政官中

異朝三公者不備レ故別立ス六省みなり和漢必符節と云ふ

つらぐレなり守假令○以中務省配中華歷代官則周禮

内史漢武中書魏武秘書文中書なり○以式部省配周禮

則天官冢宰又魏吏部隋唐吏部尚書なり○以治部省配

之則周禮春官大宗伯又後周禮部隋唐禮部尚書なり○以

民部省配之則周禮地官大司徒又吳戸部隋唐戸部尚書なり

○以兵部省配之則周禮夏官大司馬又隋唐兵部尚書あり

○以刑部省配之則周禮秋官大司寇又隋唐刑部尚書なり

○以大蔵省配之則周禮天官下大府寺所謂大蔵省本朝只似分民部省必

不當異朝唯據也雄略天皇御宇以來

諸國貢調年々盈溢更立大蔵云云

○以宮内省配之則

周禮冬官考工又隋唐工部尚書以上八省所配大概如此

猶歷代沿革備見宋職源也或人云源親房卿職原抄以八

省當周禮六卿者非也罵合之太過說不足信用也何周禮

與本朝職負令不點檢哉且自古諸儒作文之時各或用唐名也

猶ハ源准右更附令のふよとのあはれと又非説といふべし

わくわくあはれなる

公卿并諸臣

公卿クギヤウトハ攝政關白及三公ハ是公カキなり納言ウケゴシ參議サミヤ散一位三位

等散者無官之意是卿あり參議ハ四位といとも猶卿也

召名之事見上あまことすづく公卿といふ但記録ハ大臣公卿といふ

ハ納言參議散一位三位等ト公卿トイフ又是ト卿相ケイサウ

月卿ツキケイともヤカカなり各名字人賞ナシト書ハ攝關大臣の御

名字ハ假令基房モトフサ公ト記納言以下三位以上あは

基房卿ト書あり是當官前官ト如此尤自身ハなりなり

或人問云准大臣ハ公トカなりなり是ト卿ケイなり

又諸臣トハ四位以下初位以上惣云諸臣ト云其中昇殿ノボリとより

つろと殿上人といふ又四位五位の侍臣といふ是なり

任官次第
下篇ニシヨ

職原抄曰凡殿上事頭以下職事

所謂職事者藏人頭五位藏人六位藏人惣曰之職事也

所奉行也依之聽昇殿輩併以頭為貫首雖位階上臈必著

其座下是流例也

云或人問云殿上之外於他所も位階の上

臈藏人頭下に列座せらるべし答然しと只位次よりゆるし

みとみこり

諸大夫并侍

諸大夫といふ元來位階の号かり和名鈔曰四位五位は大夫

は位階といふとみこり是良家乃子孫四位五位と先途

いふ人々と惣くもはくは大夫といふ人々あり但

いふ一より諸大夫といふは或公卿昇進例多し登用を

所も名家に准じく召仕れり或人問云今攝家清華

は諸大夫と号する者登用多し如何答未知若各別欲其

人よ尋ねば今武家方諸大夫は或侍從中少將拜任いふ

あり是則似有舊儀也志くは禮節も一段ありべし今以職原

抄思之於公家六位藏人外記史殿陰院上北面親王攝家は奉仕務

らる今殿上人と号するはかく諸大夫一列也又問云藏人所出納と号

する諸大夫列欲答舊記無所見但今世のやうと云ふも其家は

尋ねたり出納局とつふありと見えたり君御の外記史と
 坊のりくく見えたり又侍とハ職原抄曰侍私安之比被定書札禮之時
 被書五位六位下北面畢又公家稱諸司官人是也凡稱侍者親王
 大臣以下諸家恪勤之名也云

堂上地下

堂上といハ昇殿とゆりあり人々をいハ昇殿ゆいといハ聽仙籍也
 又仙階といふともいハ之仙籍といハ殿上月給といハ簡ありまれ
 内の昇殿とゆりあり人々上月上夜と此簡ありともあり其上日
 上夜者晝夜宿直也夜仕曰宿晝仕曰直云職原抄所見蔵人類

と仙籍といハ是殿上の貫首あり人々雖然聽仙籍者殿上
 汝ゆりの儀あり薩戒記曰應永世二年七月廿八日早且祭主三位
 通直卿赤内候殿上聽仙籍之故也云此外證文難勝討者也
 近代清原 船橋 吉田 大中臣 藤波 此三流昇殿とゆりあり
 堂上無異儀武家方古書札に地下之部小みたり故不安案内なる
 人ハ今も地下のといハとぬど仍記之又地下といハ昇殿ゆりありを
 いふしハ堂上地下ともいハ志のり家とさうさうとて或雖為
 公卿輒不聽昇殿栗田大臣在衛公ハ中納言之時始昇殿と好り
 ありハ禁秘御鈔よりあり又古記に殿上地下公達殿上

地下諸大夫のり前不准してさるべし今世ハ堂上地下と其家さまり堂上の衆ハ初奉之時直昇殿あり其外外記史以下諸司の官人又社家不聽昇殿之輩されと地下といふあり堂上ハもとていみ地下ハはひりさるるをいひかり法濁ははるるいもくせしそ日本のなほいみゆるりも古人もや待りし官職難依よみそり

文官武官 附文武兼帯

文官ハ大臣公卿左右辨官以下文道の職といはるるなりと武官トヤシ文武トヤシハ少ん官トヤシとらん官ト

いみ中事ありいみ武官ハ左右近衛府左右衛門府左右兵衛府左右馬寮兵庫寮并外武官等と武官といふ故各帯劔せらるるなり職貞令義解曰元于戈者曰文有于戈者曰武矣公式令曰五衛府軍團及諸帶仗者爲武庫等是也太宰府三關國及内舍人不在武限謂文不在武限即知合帶仗既舉自餘並爲文矣以之思之右武官之外或職につてく帯劔せらるる官といふと武官と稱ぞらるるは猶識達の人よるぬべし又云侍從中務輔等不帶野劔謂野劔或号平靴太刀或号毛掛形太劔宿衣直衣時尚用螺鈿劔云又云雖文官或蒙宣下帶劔あり是と勅授帶劔也

の予時彈正臺及檢非違使廳は告仰らるゝにあらはれしより一へたる
例なり又文武兼帯といふ或大臣大納言之人太將と為るもの或
中納言奉議の人中將又ハ左右衛門兵衛督と兼めし或左右弁官
之人中少將又左右衛門權佐といふ或中官春官權亮と中少將と
兼めしと文武兼帯といふ餘准之

文位散位勳位

文位ハ正一位已下少初位下已上の官位といふわつと文位と
いふ散位といふ有佐無官といふ又散官といふ職負令は散位寮
と置く頭明允屬以下官人あり掌散位名帳朝集矣同集解曰

朱云文武官人解官之後皆同在此司耳又職原抄補遺ハ散三位
の事とわけく山中昨木之類也順徳院御記のひひと載めし
一と四位已下散位准之或人説云散字訓はくといふひとつり
是位といふをく官といふれをなり云散字といふを乃初未勘
但證文云一とをわぬる一と文位ハ文木といひ散位ハ散木といひ
とら中少將より前官人奏狀云何春再期散木之榮云又云文位散
位袍共は同一其色制衣服令及延喜彈正臺式のみは猶後例小右記は
みゆる一と又勳位ハ軍功の爵といふ勳一等已下十二等已上
わり軍防令義解曰將軍府具錄行軍以來行狀以為書記仍大將

以下連署即申勲之日更依此書以爲勲狀云國史所見和銅六年秋七月丙寅詔曰授以勲級本據有功若不優異何以勸特今討隼賊將軍并士卒等戰陣有功者二千二百八十餘人並宜隨方授勲等かのごとくにふあしく軍功の爵あはれと文位に必勲位の付らるるよしんゆち寄多し是官位令義解文んゆちさるああり古記所見或文位と勲位と兼帯れ人あり或文位あくく勲位とわりの人わり又文位ゆりく勲位あさひとあり其勲位わりの人文位れ人とちよ行立とん勲一等ハ正三位と從三位とのりよ列し勲二等ハ從三位と正四位のる勲三等ハ正四位と從四位のる勲四等ハ從四位と正五位の間勲五等ハ正五位と從五位のる勲六等ハ從五位と正六位のる勲七等ハ正六位と從六位のる勲八等ハ從六位と正七位の間勲九等ハ正七位と從七位のあつと勲十等ハ從七位と正八位のる勲十一等ハ正八位と從八位のる勲十二等ハ從八位と大初位のるに列しとん凡文位ある人勲位兼帯ては其文位の袍と着しと列しとあり假令六位の人勲一等と帶とし緑乃袍と着して正三位と從三位のるよ列しとん

文位ある人ハ黃袍無位着しと列しとん官位令義解及延喜式部式よみとるり文位ある人よ必勲位兼帯とるにそあは

公卿補任クモツクシは凡そ又云諸神の位階イハカは或文位勲位兼帶ケンタイとあり假令
 正位の神カミは勲一等或二等三等以下或八等もあり又文位イハカは正三位サントウにて
 勲位イハカもイハカもありイハカ一准イハカなり其神社の勲位イハカ若是軍中祈願ケンチュウキガン
 たりイハカは尋常イハカなり又臣下は勲位イハカと高下差別サババツあり或正三位の人
 勲三等或從三位の人勲五等と帶イハカなりとあり國史公卿補任等
 によりイハカくイハカも或人問天下諸神悉正一位サントウ欽イハカ答イハカ各階級等
 差イハカあり但今世定例テイレイとありイハカと上古正一位は給位田八町チノに田令
 にみよイハカなり

女房官品

林

中宮

古今コキン差別サババツあり職負令義解チカガタキ曰中宮職謂皇太后宮其太皇太后皇
 太后亦自中宮也イハカ職原抄所見中宮ハ即皇太后クワクワなり本朝二宮と
 ありイハカ也イハカ太其イハカいイハカれイハカ然イハカ而イハカ光仁御宇此職イハカはイハカとれ
 くるイハカ以来代イハカくイハカなイハカるイハカもイハカ仍今号四宮也イハカ云イハカ今案イハカレイハカ條の
 所見イハカ以イハカ三宮号中宮又桓武天皇御宇イハカ以イハカ母后イハカ光仁天皇后イハカ稱中宮
 ありイハカ職原抄イハカはイハカ先仁御宇イハカなり又至後世イハカ帝妻二人と
 ありイハカ也イハカ中宮皇太后イハカなり故号四宮イハカ云イハカ一條院御宇

中宮ハ上東門院

御堂關白

皇后ハ定子

中關白

相並居

雖然近代無二宮之儀依世異者也蓋中宮以上行節會被任之也

然而大夫以下官司と置る之其式委江次第などにみたり

女御 女御代

後宮職員令御説曰妃夫人嬪是女御之類也矣禁秘御鈔曰上御

局系子右女御更衣カウキ上カウキ所也云又曰上御局カウキ是

御行ナド有所也女御更衣可奉上矣儀禮注云女御掌御叙于

王之燕寢矣又女御代者其規式不嚴重之儀欵凡女御親王執政

家清華等御女也但近世のカウキと云々カウキ河海所見女御始

雄略天皇七年カウキ求稚媛カウキ吉備上道カウキ為女御是初也カウキ上古或御息所

より轉任又更衣カウキよりカウキのカウキ例あり

更衣カウキ 御匣殿カウキ 御所中沙汰人也 御服裁縫之所也

更衣ハ大概女御よりカウキ天子御衣裳召カウキよりカウキしりれ

河海云仁明天皇御宇正五位上紀カウキ眞女被授從四位下為更衣是

始也カウキ禁秘御鈔曰上古可然人女皆女御更衣カウキアリカウキ云

尚侍

尚侍ハ内侍長官カウキ後宮職員令曰尚侍二人堂供奉掌侍奏

請宣傳檢校女孺兼知内外命婦朝參及禁内禮式之事カウキ禁秘

御鈔曰尚侍是大略可准更衣等近代又絶畢云花鳥餘精云西宮云
尚侍新任之後請縫殿陣令奏慶賀之由内侍一人出来傳奏給祿
中宮御内者付内侍令啓慶賀有贈物云女官志云尚侍執柄家
乃涉ひとあふとあり今案近世此任なり

典侍

典侍ハ内侍次官なり後宮職員令曰典侍四人掌同尚侍唯不得
奏請宣傳若元尚侍者得奏請宣傳矣禁祕御鈔曰典侍四人也
此職尤重為御乳母之人者諸大夫女聽之只人公卿侍臣女也侍臣
女生公達躰也大臣子頗無例大臣孫少々有例云又曰不謂是非

二三位典侍号上臈着赤青色候御陪膳也云今案貞數四人

之中以上首云大典侍其次ハ姓とくしく大典侍と号し假令藤氏
藤大典侍源氏ハ源大典侍なり三四ハ或權中納言典侍宰相典侍
がどくやと云又云直任轉任ハ家の勝劣より轉任とも掌侍
はたしなむは任ぞとあり

掌侍

掌侍ハ内侍判官なり主典者取女孺堪任者為之但畧于此是号上臈後宮職員令
曰掌侍四人掌同典侍唯不得奏請宣傳矣禁祕御鈔曰掌侍六人
正四人權二人此中以内侍為勾當隨補日為一二也雖為先帝内侍
權自上古有之

當帝時後タウテイノ泰為テイノ下臈例也ゲラノ云クモ禁中殊重職キナカニシツチウジヨク允可撰其器量ヨクニシテキヨクニシテ補之ホフ
 只諸大夫公卿女シテシテシテ雖有例非普通事シテシテシテ納言孫ノクニ又同品シテシテ樣程公卿孫ノクニ
 也又侍臣女也シテシテ生公達女ナマキチノ又只諸大夫女シテシテ是殊シテシテ父不超シテシテ諸家者女也シテシテ
 但少々シテシテ尤道人シテシテ交欵シテシテ允可有精撰事也シテシテ雖不超諸家シテシテ非重代者女シテシテ
 不可補シテシテ凡内侍官シテシテ僧女シテシテ不補事也シテシテ又其身人シテシテ從者シテシテ不補シテシテ但執柄家聽之シテシテ
 又曰シテシテ凡女房シテシテ上臈シテシテ小上臈シテシテ内侍外不入シテシテ夜御殿シテシテ朝餉シテシテ云クモ今案シテシテ第一句シテシテ
 當内侍シテシテ俗曰シテシテ之長橋シテシテ其次各其姓シテシテとくシテシテ或管内侍シテシテ源内侍シテシテ
 又云シテシテ今條所見シテシテ唯不得奏請シテシテ宣傳シテシテ蓋今世所見シテシテ專得奏請シテシテ
 宣傳シテシテ或僧俗官位シテシテ勅許之時シテシテ申其慶シテシテ於長橋シテシテ或奏聞シテシテ文シテシテと長橋シテシテ

ほいせらるシテシテ句當勅シテシテとくシテシテをめぐシテシテちりシテシテぬシテシテ奏請シテシテとくシテシテいシテシテうシテシテかシテシテ又
 と用ひらシテシテ此外被載シテシテ今條女官略シテシテ之今世悉シテシテとシテシテかシテシテらシテシテづシテシテりシテシテゆシテシテへシテシテ之
 或人問内侍シテシテとハ官司シテシテの号シテシテなりシテシテとシテシテ於掌侍シテシテ内侍シテシテの字シテシテと用シテシテ
 如何シテシテ答シテシテられシテシテ官司シテシテ判官シテシテありシテシテぬシテシテとシテシテ一官シテシテの政人シテシテハ男女官
 とシテシテに其官司シテシテの号シテシテと移シテシテとシテシテ事シテシテ活例シテシテあり

藏人

今ノヲシモノ

女藏人メノクラマドといふシテシテゆシテシテありシテシテ上臈シテシテ小上臈シテシテとシテシテひシテシテくシテシテ中臈シテシテ下臈シテシテのシテシテお
 かりシテシテ禁秘御鈔シテシテ中臈シテシテ内侍シテシテ外不着シテシテ織物類シテシテ也シテシテ是昔号シテシテ命婦シテシテ今案シテシテ
 辭命シテシテ侍臣シテシテ女シテシテ以下シテシテ也シテシテ諸大夫良家下シテシテ今案謂良家シテシテ偏據シテシテ符文シテシテ秘シテシテ醫陰シテシテ
 之義シテシテ謂三位シテシテ已上シテシテ見シテシテ天長シテシテ格文シテシテ

陽道等猶号中薦八幡別當女同凡一切者多中薦品也又曰下
薦諸待賀茂日吉社司等女也皆称候名也今案候名云女藏人
尤近之類也云不
及國名但其内宿老者或賀茂祭為命婦渡後或國名ヲモヨビ
或候名有也ハサシテモ是近代如此皆下薦藏人也但近代中薦品上品藏人

多欺云

得選

得選トハ於采女中選其人故得此名云云云云采女中の上首
あり故御膳の手長おどゆゆ一ヤ禁祕御鈔曰得選三人
也又髪上采女兼之近代華族遺法而女房大畧無差別氣色也

云今案

華族ハ清華のゆゑなり華饒美麗のまあり

采女

采者摘也又事也又色也與彩同じ一箇くもあふれべき
采女と云ふは古今集おどゆゆとあり
采女ハ采事とも多ク後宮職員令曰其貢采女者郡少領以上
姉妹及女形容端正者皆申中務省奏聞矣禁祕御鈔曰采女陪膳
采女尤可然事也近代漸所令零落無極尤可有沙汰事也云

刀自

刀自又作眉蓋本字負也和名鈔曰劉向列女傳云古語老母為負云

今案俗人謂老女為肩ト云女官志曰刀自ハ内侍所のゆりこ女ニヨビ婦
かども刀自ト云さうそくいふと禁秘御鈔曰刀自御膳宿臺所各
別也キスカラキマノリ結中ユラ但近代只衣結中着唐衣是ニ一向御膳位者也
今案結中カフキスハ背子の着居ニ其躰如左右祖湯カクヌヤタカゆひ居ニ口
づゝもほくほくツクほぐれハんゆニごニのあり

女官

臺所女官ダイドコロ御浴殿女官ウヂノあり但女官ニヨビのありわづりハ刀自ト云と
ゆりハ禁秘御鈔曰女官臺所女官御裝束物沙汰不可ニ只供御但
近日兼ト云履ト云御湯殿女官奉公物也ルシモラ無指ニ季祿ニ不便他女官等如ニ

浮雲

主殿司

是主殿仕女シメ多り殿上洒掃サイソウと供奉クワンと逍遙院殿御説ロウヨウ曰主殿司サハ殿
上に候コトく蔵人辨シメおとよニまニつニふニく禁秘御鈔曰主殿司六
人近代ニ十二人華族ユラゲン幽去送ユリ添時ラ今不取待ニ臣脱ニ皆ニ裏ニ無ニ於ニ殿上ニ沓
脱不入御殿ト云畧主殿司美麗ト云姿也公人内ニ可ニ称ニ神妙之職ト云

女孺

是殿司女孺ト云と掃司女孺ト云と合ニて職ニなり今條ニ點檢ニあニるニ日中
行事ニ曰堂上ハかトんトどのハりハれ女孺ト云をニくニ又ニ曰ニりハのト事ト

ととくくわれいあくの掌燈とて禁祕御鈔曰女嬬近代不著
衣只小袖唐衣也以无道安御調度觸手上下格子奉仕是藏人等
如在不當故也御所中掃除指油役女嬬所知也云

右宮人次第大掖りのごとくあれより以下更不加冷案以女官志
後普光園記之但任人古今少差あるべしものあり
殿下御作

仙洞

大上臈

親王攝家大臣家女すつろ或只上臈とすつろ大中納言女ありた
經大臣家女かすつろ上臈とすつろ

小上臈

大中納言れ人々のひとあともほりれ又小路の名かすつろ
あり

中臈

是も日野勸修寺れ末人平家の人又管家れ人かすつろあ
りしれかり大形執柄家れ女房官と考るべし但女官あは
内裏とすつろあり

執柄家

大上臈

四等不念明
カケホノ
護等ノ凡

親王大臣ノ御女ガトハ此名アリ

向名

上臈の名ナリ北政所ナリ
いしねぞー
名あり

一對

御つア

いしねと上臈の号トハ名あり

小上臈

いしねも小路の名又二位三位大納言と号トナリ

中臈

中少將ナリ
いしね方リ
九衛門督小督ハ小上臈トモナリ

下臈

侍従小辨女納言トハ下臈トナリ
中臈トナリ

上臈

是等ハ國名トモセ
あはれ名トモナリ

か自

あはれを内裏トモ
の石自トモナリ

此外

北政所

此号ハ執柄家^{ミツヘイケ}に^ミくとも内裏^{ミヤ}より内^ミに^ミく宣下^{センゲ}あり
御臺^{ミダ}

大形北政所^{キョウシキキョウシヨ}などおありはよの事^{コト}なり此号ハ宣下^{センゲ}なり

御方^{ミカタ}の名事
北東^{キョウトウ}の御方^{ミカタ}ハ上^{ウヘ}あり南西^{ミナニシ}ハ方角^{ハツカク}に^ハくも聊^{イサカ}と^ハなり方名^{カタナ}と
向名^{ムキナ}とハ方名^{カタナ}のわづら^{ワズラ}やう^{ヤウ}に^ハ供^{ツク}なり

向^{ムク}く名事
方名^{カタナ}と^ハわづら^{ワズラ}

對事

一^{ヒト}對^{タイ}上^{ウヘ}なり。二^ニ對^{タイ}下^{シモ}なり。聊^{イサカ}を^ハり^ハり^ハり

小路名事

一條^{イツ}。二條^ニ。三條^{サン}近衛^{チカエ}春^{ハル}日^ヒのれ^{ノレ}上^{ウヘ}名^ナなり大宮^{オホミヤ}京^{キョウ}極^{キョク}こ^コも^モハ
中^{ナカ}なり高倉^{タカクラ}四條^{シヨウ}を^ハり小路^{コウジ}の^ノう^ウら^ラは^ハと^トも^モあり兵^{ヘイ}藤^{トウ}の^ノま^マを^ヲ
わづら^{ワズラ}と小路^{コウジ}の名^ナハ付^{ツキ}なり

大納言局

中納言局

左衛門督

帥

按察使

右衛門督

これ^{コレ}ハ上^{ウヘ}臈^{ラウ}の^ノ付^{ツキ}名^ナなり此^{コノ}中^{ナカ}に^ハも按察使^{アセツツシ}の^ノ聊^{イサカ}あり^ハりて

さぐりくあり

一位局 イチキョウ

二位局 ニキョウ

三位局 サンキョウ

あゆみの随分の事なり

小宰相 コサイシャウ

小督 コトク

小兵衛督 コヘイエトク

是等ハ随分中臈小上臈をとり名あり

中將 チュウシャウ

少將 ショウシャウ

左京大夫 サキウダイフ

宮内卿 ミヤノウキョウ

新とけ シントケ

左衛門佐 サエモンサ

こまじくハ中臈中江を随分の人あり之をとり小字とてあり
付くありなるなり

侍従 シヤウジユ

少納言 ショウナゴン

小辨 コベン

國々名 クニクニナ

是等ハ下臈の名なり侍従少納言ハ中臈をとり名あり
さうりく付たりくく國々名ハ大形あり

伊豫 イヨ

播磨 ハヤシ

丹後 タニゴ

周防 スヘ

越前 エチゼン

伊勢 イセ

あまじくハ國名はくともさぐりくあり内裏などほくも
中臈をとり名あり

但馬 タジマ

尾張 オウヱ

美作 ミササキ

越後 エチゴ

備後

豊後

加賀

ふれいふどいすびどの國名あり大形國名ハ此外は相
んううへく付る

惣じて新大納言權大納言など添する執りたる名あり又
新すけ今來あどのいけり先する人の名をむさとしひあき
といふあり新三位などハ新と添するとして三位よりハ聊と
いふる又ハ少將小辨などハ執りたる此外上童などハあき
源氏披衣の意に名を付るこころはぬ名上童としてあきあり
大概これいふりあき此中にも上中下の事いふて

名とけくむあがら上と二位三位などハ宣下あき
位の名とけりしはくは執柄より下の人ハ名とハんううひく付
取あり只又東殿南殿などいふべきは中とさほとあり
かぐたれあきハ御所の号などハ不劣あり御所号を北政
所よりいふあきいつをも楚忽といふなり人のをさく
んくうひは有へりて仙洞執柄とハ若君御所号あきハ大臣家
あどなりハ御所号ハ有へりていふなり人よりいふべきも也

官職知要上巻終
永徳二年二月十日作進 授政判
右永徳二年二月十日作進 授政判
光園攝政良基公也後代之可為龜鏡者
御奥書略之
基春卿
永正八年三月十七日左邊 督藤原判

官職知要卷中目錄

以前官号テモシガクシノカララシクシテモシタリガクシテ称如カクシ當官之品

以叙留判官ヲシテシラフシテ称大夫之事

弘安禮節ミマラシムル名字判カフ二合之品

官位昇進シヨウジン之名目

隨身兵仗ベイジンヒマウチ之事

廂差ヒナシ絲毛車イトケノクルマ圖附榻

僧官位ソウカンイ相當トシヨク與俗位ヨクイ相當トシヨク任叙ニシヨク盤勝ハシヤク

不加ルカス称号シヨウガクシ之官

遣藏人ツカサスクラウトニ消息アテドコロ宛所之事

依家テイエノシヨウレンニ勝劣シニシマリ書札シニシマリ斟酌之事

淳和シニシナシヤウカク禁學シニシナシヤウカク兩院シニシナシヤウカク別當シニシナシヤウカク之事

牛車ウシクルマ馬寮ウマノヤ御監ミケン之事

攝家セツケ清華セイカ羽林ウヰリン名家メイカ之品

Handwritten notes in the bottom right corner of the right page.



官職知要中

以前官号称如當官之品

或人問前大中納言前宰相ハキリサイヒキウ人々或如當官ハキリ大納言殿中納言殿
 宰相殿ハキリ他人ヒト稱イフ或消息ヒト聞ク有ク之如何イフ答云前官ハキリ散官サンクワン
ヒト無官ムクワン公卿補任クキヤウフシ非ヒ參議サンギ之列レ載セ之コト雖レ
 然各官重寄シテ異于他仍雖前官ハキリ内ノ事コト其号ナリ稱イフ之コト或加フ
 前サキ一字ヒト或不加ル之コト可シ依ル時宜トキニ也但和歌懷紙位署書等ワカウラヒシ式正シヨガキ乃物ナリハ
 前官サキの号ナリと書カキめしテ假令散位サシ從ミ三位藤原朝臣サシ某ナリふトみテり
 不加ル稱号イフ之官ノ

称号とハ近衛九條一條一條鷹司之類の家号也武家方ハはなはた
名字とソハ公家方ハ自古称号とソハ又名字とソハハ武家
方ハ名乗と書札式とソハハ武差別可心得也凡不加称号官者

攝政關白大臣

太政大臣 左大臣 右大臣 内大臣

左右大將

兼官之時不稱太將也

頭中將頭辨

頭者藏人頭也

大外記

有清中兩家之

官務等之類各一人

或頭中將二人或頭辨二

人々あり假令園頭中將殿就鳥尾頭中將殿勸修寺頭辨殿廣橋頭辨殿
ふとく其称号とくハ職原抄曰頭二人辨方一人近衛同方一人補之常例
也云又云攝政關白大臣者太爲重寄仍雖辭職之後是又稱前官蓋レ

と一人つゝの時ハ不及称号ガ若同前官多クハ各其称号とくハ

なり但其身式正書物ハ前官号とナリと祇用散位字前段トク

以叙留判官称大夫之事

叙留者官位相當の人位階とのかり官如元とゆると叙留のハ

叙留とゆるとゆると凡諸司判官ハ相當六位也志と叙五位而官如

元とゆると假令其官中務丞式部丞民部丞とハ中務大夫式部大夫民

部大夫とのハ右近衛將監とハ右近大夫右近大夫とのハ右衛門尉

とハ左衛門大夫右衛門大夫とのハ或五位外記史五位判官ハ大夫外記大夫

史大夫判官とハ又將監と或左近右近大夫將監或大夫將監ととみえ

より各頭職之分がりのこと又云式部大夫五位民部大夫五位とのこと
 わり是ハ叙五位去職之人也式部民部丞ハ二省丞といひく頭職と経る
 あり如也蔵人五位といふは是とも叙留人と云はるゝありあり
 職原抄白式部 叙五位ノナリ又云叙留辭職とて大夫と叙せらるハ
 侍のう隨分規模事也いりハ叙五位ハ叙しごと此事之清納言
 枕草紙曰式部大夫九衛門大夫史大夫六位蔵人ハひくべらにもの
 かありそくそくみより道達院殿御説言人賞よく民部大夫
 右衛門大夫等々の類がごと其身ハかざる事と云ふよりありあり
 自身ハ名のりもさうさうよづぬ又古記所見り

遣蔵人消息宛所之事

堂上方互に消息之時蔵人方遣一の頭中將殿頭右中將殿或
 右頭左大辨殿頭右大辨殿或除又頭よあつら蔵人ハ蔵人九中辨殿蔵
 人右少辨殿今案非公儀於内六位蔵人ハ蔵人式部大丞殿蔵人中
 務大丞殿蔵人判官殿是内ノ者称号式部丞殿中務丞殿九衛門尉殿也
 方よりハ只九近權中將右近權中將或除近一守或九大辨右大辨九中辨右
 少辨六位ハ式部丞中務丞右衛門尉と書く頭蔵人の字と除くあり
 洞院家書札よみあり但位署書のことハ蔵人よりいへめ辨官位階
 兼官われハ猶兼官より悉書式のごと不殘書あり見下卷 位署篇 九蔵

者頭二人五位三人六位四人也以上曰職事殿上事頭以下職事奉行
 セレぬ一也故以頭為貫首仍殿上人之中雖有位階上屬於殿上者
 必著其座下給是流例也云常例頭二人近衛司方一人謂之頭中將辨方
 一人謂之頭辨也頭辨ハ或左右大中辨に之頭より五位三人先少辨兼之
 而轉中辨左右中少辨ノ蓋辨官多れば之必藏人と帶せらるるに之
 わくど如何者參議大辨ハ藏人帶しぬれども又四位五位辨も之も
 藏人を帶しぬる人あり家の例も之れなり六位藏人四人或
 式部大丞中務大丞廷尉左右衛門尉蒙使宣旨之類也五位以上も
 侍臣也六位ハ諸大夫也六位藏人四人之中第一曰極膳第二曰差次

第三藤氏藤氏の源氏源氏の源藏人源藏人といひ第四新藏人新藏人と
 いふ是とも他人ハ消息ハ書の人とも其身不書やうのみ多かり
 但依事品依事品のあつとも見及作見及作とそれハさうくくハけさとも事
 云又以事次以事次の宰相宰相なる人中將と兼めひーとも他人ハ宰相
 中將と被書候とも自身ハ宰相とぐり書めよ是諸家一同又如
 此必家ハ高下高下はも前前に准じてあつたり但近比或人説て
 承りぬ自身と家よりり宰相中將と被書候とつり若きとも
 難うべと家よりりかとも古案證文ありや未知猶博覽の
 今よるぬなり

弘安禮節名字判二合之品

弘安禮節ハ公家書札式あり不得傳者難得心事はは就中此三
 の品人ごころ不審せり故粗記尤それ名字ハ今ハ名乗あり公家方
 には名字と判と一所ハとらひのめざらじ名字あれバ判ナリ判の
 じハ名字と判ハのめざらじ名字と真行草の品と敬不敬かこれ
 かり又判とハ名字と略しつるものほく是と草名とと花押ゆと
 してこれ下輩ハワケのこ〜又二合とハ則二合と書あり康富記
 禮節秘鈔等いと判と二合ハ差別委みたり畢竟二合とましく有
 秘訓ハ或御家の秘説あれはとらじと或人説云二合とハ假令元判ハ

の利とつふと真名相違く書こ是不足信用者欲若あり〜ハ
 康富記とめぐひぬる〜且不審あり弘安禮節二合ハ一段と異なる
 の儀は判とらじとやつる所の事〜我より違劣する法あり
 是とらふゆゑ一へつることセハ豈禁裏院中ハ奏ハ女房方へ
 高下と論ぜん皆ふ真名ゆ〜つる名乗と書こ〜憚りあり〜や
 其或人は尋ねる〜ゆゑかゆ〜つる名乗と用り事ハ男の〜こ
 じと惣く女中にはつらと書式は〜別の事〜とらじ〜是と二合
 とつらハ甚透説固人〜らじ〜

依家勝劣書札斟酌之事

互タガヒ同官同位ドウカンドウイよりとてト其シ人ヒト依テ種シ姓セウ書シ札シ之ノ禮レ尤モト斟酌シ有ルべし
 僧ソウ中チュウと又マタ同ドウ就ジュ中チュウ攝セツ家ケ方カタ之ノ禮レ貴キ重ジュウ異イ于ニ他タ者シヤ也ナリ桃トウ花クワ藥ワズ葉イ日ヨク攝セツ家ケ
 事コト者ハ自ジ他タと憚ヒヤシくク如ニ弘コウ安アン禮レ節セツ書シ之ノ清セイ華カ之ノ輩ハイ同ドウ官カン同ドウ位イの時トキ
 通ツウ書シヤク狀シヤク無ム字ジ細サイ名メイ字ジ等トウ輩ハイ之ノ禮レよりヨリ又マタ清セイ華カ丞セウ相シヤウにシて
 攝セツ家ケ納ナク言ゴン之ノ時トキ不ズ遣カサ狀シヤク大ダイ臣シンハ判ハン大ダイ納ナク言ゴンハ名メイ字ジよりヨリ所シヨ用ヨウ事シハ以テ使シ
 者シヤ往ワウ來ライとトありアリ或ニ屬リク知チ音イン人ニ可ニ令レ傳デン達タク也ナリ家ケ禮レ名メイ家ケよりヨリ以テ奉ホウ書シヤク仰ヨウ之ノ
 或ニ女メ房ボウ狀シヤク判ハンたト書シ海カイのノ内ウチにニありアリとトハ書シ狀シヤクハ向コウ斟シ酌サクとトありアリ
 可キ得トク御ゴ意イ之ノ由ユ書シ之ノ多タ分ブン之ノ儀ギ也ナリとト依テ弘コウ安アン之ノ禮レのノとトありアリ
 恐コウ惶キョウ謹キン言ゴンと書シ之ノ人ヒトありアリ其シ時トキも不ズ及キ返ヘン事シ以テ使シ者シヤ可キ返ヘン答トウのノとトありアリ
 故コ殿テン成セイ恩オン寺ジ開カイ白ハク被ヒ仰ヨウ也ナリ又マタ攝セツ關カン之ノ時トキ猶ナウ如ニ弘コウ安アン之ノ禮レ書シ之ノ人ヒトありアリ
 應オウ永エイ二ニ年ネン之ノ時トキ分ブン名メイ家ケ中チュウ納ナク言ゴン進シン故コ殿テン書シ狀シヤク弘コウ安アンのノ禮レとトありアリ其シ恐コウ惶キョウ
 謹キン言ゴンと書シ之ノ鹿ロク苑エン院イン殿テン將シヤウ軍クン令キョウ聞クン及キツ給キツ被ヒ仰ヨウ緩クワン急キツ之ノ由ユ可キ被ヒ召シヨウ職シヨク之ノ趣ソ
 委ウ細サイ見ケン故コ殿テン御ゴ記キ其シ時トキ分ブン名メイ家ケ大ダイ納ナク言ゴン以下イカニ一人ヒトとト以テ直チキ狀シヤク申シ入スるル人ヒト
 無ム之ノ及キ末マツ代ダイ者シヤ弥ミ以テ可キ有ル過カ分ブン之ノ義ギ也ナリ計ケリ時トキ宜キ無ム巨キョ難ナン之ノ様サマ可キ被ヒ進シン退タイ也ナリ
 云クニ弘コウ安アン制セイ符フ存ソン家ケ之ノ勝シヨウ劣リョウ宜キ令キョウ斟シ酌サクとトハ是ナリ也ナリ自ジ余ヨ准シン之ノとトありアリ
 官カン位イ昇シヨウ進シン之ノ名メイ目メ
 巨キョ官カン位イ之ノ言ゴン

官職知要中
 六

昇進

任叙

昇進といふ官と進といふ位と昇といふ故は官位とにかけり
名目なり蓋官とくらのことと昇進こととちよれん○任叙は
官位とにけり○名目あり官と任といふ位と叙といふ
ゆへあり

官之言

任官

拜任

それハ官とくりに勅許之時の幸之拜の字上と拜禮ととの儀

轉任

遷任

直任

轉任といふ不超官次第とくともみゆといふ假令中納言轉大納言

のい又内大臣轉右大臣右大臣轉左大臣左大臣轉太政大臣のい

轉任といふ或諸寮允轉助助轉頭も同し幸之余准之○遷任ハ諸司

官遷諸寮官武官遷文官外官内官にけり○直任といふ起

官次第任といふ准大臣直任太政大臣左大臣又二三位中將直中納

言に任といふ僧官にけり先可任律師と直僧都に任といふなり

兼任

兼帶

兼任兼帶といふに同し事ハ一人とく二官三官にけり數多
かの任といふといふ猶位署書篇とてなりぬ

再任

還任

還補

復辟

再任サイニシとハ或納言ナフゴシより一人一度官と辞退ジタイし又元の官とありて
任ニシじぬ事あり是と再任サイニシとハ○還任ゲンニシは上カミと同事なり
かり任ニシじぬの依あり○還補ゲンフとハ攝政關白より一人一度辞退ジタイ
ぬひとのら又補攝關ニシぬとハ或是と再任サイニシとみくろり○復辟フツキ
とハ攝政と辞ジぬぬとハ攝政篇ニシよりりて去ぬなり

推任

逆退

還昇

更任

重任

延任

推任ツイニシとハあるとより上カミより上カミと賞カガミしてあるとハ

○逆退ギャクタイとハ六位藏人クワンジン第一日之極臈ゴクラク此極臈叙ニシ五位則地下カダとありて
圓融院御宇藤原相如藏人スチエキ叙ニシ爵カウリ叙ニシいくはむと作シり
たれハ奉命ぬ雲井クモイと多々タタたのいうるは人ヒトとすん
とハゆりるととけしとて作シる御製ゴサイ。あ田タのノこと
れうに別ワケぬれははよまむとつとめと作シるにけれ
るうとハ或不叙ハズニシ爵カウリとわと入イりて第四新藏人シンクワンジンとありて
逆退ギャクタイとハ職原抄シキハシ白シラ至于極臈者シテハ必預巡シ爵カウリ若有奉公之志シ除其籍シ更ニシ加
未座ミゼとありは是あり○還昇ゲンシヨウ常音ジョウオンシヨウ也シヨウ名目也又
五位地下ニゴカとあり又昇殿シヨウテンとゆるとと還昇ゲンシヨウとハ今世所見堂上イマセソミドウジョウ方息ホウシキ

とりの或服者その除服後なり任むるをトイフなり
尋へ一〇停任といふ事ありし事ある人れ官と停めし輕罪之時
ハ或兼官なり停めしあり〇解官或遭父母喪解官云云又有罪
之人罪淺深と定られ有解官云云又流罪之事輕重其品あり云云

重職

重任

重職重任同し是ハ職の重き事也但前ハ國司一任と云ふ又
かて〇之任はらばらばんといふ事あり官職難儀曰重任と讀
む別の事なりていふんと云ハ此官ハ重職に似たりこといふこと
是と或人れいふことと云ふんと云ハ此官ハ重職に似たりこといふこと

ちさにはいれども有識の口傳れしりてはるるの事とてゆり
ゆりしりていふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと
つとていふことと云ふことと云ふことと云ふことと云ふこと

顯官

閑官

顯官顯職同し事あり顯者明也著也職原抄曰顯職者外記官吏
式部民部丞彈正忠葛藤由判官等也左右衛門尉猶雖為顯官於今者
不及沙汰とていふ〇閑官本朝文粹曰藤原篤茂云祕書者閑官之
至極也云云 祕書者圖書
唐名也云云

位階之言

拜叙

加階

加級

拜叙選叙今義解曰叙者考叙言計考叙位也矣拜字上より同じ

○加階 階註見官位 假令五位人加一階叙四位之類なり余准之○加級

とも自一位置至三位有正從自四位至初位每階有正從上下之級なり

從下の人從上よのり從上の人正下にのり正下の人正上よの
はれと加級といふあり

推叙

直叙

叙留

推叙是も推任の推といふ○直叙假令可叙五位之人直よ四位より

叙せらるゝ又僧位はくハ可叙法橋之人直よ被叙法眼法印といふ

○叙留といハ假令六位判官叙五位官如元留れといふ余官位也又

准之相當不相當のんぐとるなり

叙爵

上階

叙爵といハ叙五位といふ又人祝しく榮爵ともトナリ爵者凡

雖為諸位物号初叙五位之時叙爵といふ事日本之法也と名目等に

乃々よりそれ五位以上ハじし位也といふ六位以下ハ位田か故

以叙五位叙爵といふ之○上階といハ三位より叙しぬより三位以上ハ

公卿位階なり四位以下ハ諸臣位階なり

除籍

除籍籍者殿上ニツキワ目給フダといふ簡ありいあり元（聽昇殿之人の上ニヤウニチ）日
上夜と此簡フダある一あふ若罪ツミある時此簡フダとのごとく曰之除籍
かり又除名チヨミヤリ一々解見任トクケシニシラ云云

官

勅任チヨシニ

奏任ソウシニ

判任シニシ

選叙令曰凡任官大納言以上セシニヨ左右大辨シヤウキヤウシカ八省卿フクカミ五衛府督タケシヤウ彈正尹タカイノソウハ太宰帥チヨシニ勅
任シニ謂皇太子傳官位高於七省卿故准為勅任シニ餘官奏任ソウシニ謂内外諸司シニ盡以

上其郡領軍教亦為奏任シニ主政主帳及家令等判任シニ謂依軍防令内舍人亦為

判任其文學才伎長上亦同シニ舍人史生使部伴部帳内次負人等式部判補シニ矣

續日本紀曰天平元年七月凡遷任之人奏任以上者以名籍送太政官判任者
式部銓擬而送之

位

勅授チヨクヅ

奏授ソウヅ

判授シニヅ

選叙令曰凡内外五位以上勅授内八位外七位以上奏授外八位及内外初位
者官判授シニ謂勅授奏授判授者官人授位亦同其勲位亦依相當法准文

式假令六等以上為勅授シニ二等以上為奏授之類也今案勅授奏授判授

或官の方シニと用り凡位クニシの事シニかざりて或勅授帶劔チヨクヅといふことあり
故職原抄に任官シニ此事シニと用ひのり又官職秘鈔シニと粗ホみ多シきり

但勅任奏任判任ハ任官ノ事ニクミルノあり

淳和特學西院別當之事

淳和院者元橘木后崇我帝之別宮也其後為天長上皇淳和帝之離宮

也又号西院此所也在四條西大官東世謂此院者依為淳和天皇之離宮有此

号者非也天長上皇崩御於此院故奉号淳和天皇者也○禁學院者在納

言行平卿申立之號曰禁學院是為王氏諸生別曹也在九條三條此館接大學

寮有永道之便且門對勸學院在三條北壬生西藤氏學生住之有擇隣之意云仍於

淳和院者只有學舍号而已此兩院別當之事昔者諸源氏之中公卿第

一之人被補之為納言之時多兼兩院任大臣之日以淳和院與奪次人於

禁學院猶被帶之但崇德院御宇保延六年十二月以來以村上源氏被

補之中院右大臣雅定是始也依鳥羽院勅定也于時他源氏上臈有

三人云雖然後小松院御世永德三年正月鹿死院大將軍源義滿公是也

為兩院別當即為源氏長者云爾宋永此源氏小相傳一ひく日々に

榮々たり

隨身兵仗之事

隨身兵仗ハ攝政關白大臣ガトシ無止事人ニ賜内舍人近衛或重

隨身之事宣下あり令護隨其身みより延長八年十二月日

貞信公返隨身表曰臣忠平言伏奉今月四日勅命賜内舍人二人左右

近衛各四人以為微臣隨身兵仗云又長德二年八月九日御堂殿時

龍大將同日以童六人為隨身三年十月九日勅賜左右近衛府生

各一人兵衛各三人為隨身停童子古記今案賜於攝政

關白大臣隨身兵仗之始忠休那軍也公卿補位曰天安二年十一月七

日宣旨太政大臣從一位藤原良房忠仁公為攝政准三宮全良封賜

內舍人左右近衛等為隨身帶仗資人二十人依為帝外祖被抽賞也

又云元慶二年七月十七日攝政右大臣正二位藤原基經昭宣公賜隨身

內舍人二人左右近衛各四人職原抄曰內舍人攝政關白給內舍人隨身

時殊撰其器召仕之帶劍之官也又曰近衛府生番長近衛舍人中上皇執

政若給兵仗大臣及左右大將必召仕之大納言大將不召仕府生大臣大將以上

右加府生也今案有一負隨身也是規模之事弘安禮節曰僮僕負

數事隨身太上天皇十四人將曹二人府生二人番長二人已上近衛

八人步近代六人可尋攝政關白十人府生二人番長二人已上近衛六人

○大將大臣八人○納言參議六人○中將四人○少將二人○諸衛督

四人○仗二人以上弘安御制符記之又時宜之九為一

牛車馬御監之事

凡乘車五位以上也但雖六位以下依久又有乘車云法曹至要鈔曰

長保制云一應重禁制六位以下乘車事外記官史諸司三分以上及公卿

子孫及昇殿者藏人所衆文章得業生不可必制以前云案之非色之輩乘車之時三西御説違式罪可答四十但有位有蔭之輩不擬決之云三傳

鈔曰牛車人忝内事入從上東門至于式曹司坤角下車即立車於此所

中山御説矣内裏御忝時牛車宣旨以前引入御車於陣口事甚不當也云今案

牛車輦車等有宣下之事是輒不聽之儀也但攝關宿德大臣或侍讀

皆老有牛車宣下者即乘出入中衛云云云云云云云云

ナカニ云云の車と云ふ云云又云輦車宣下者即乘出入

大内云云謂輦車和名天久流萬為輕輪人挽所行也云云云云

古記所見車名自有其品又兼用車依人異者也其○唐廂車或又号唐車

太上天皇親王攝關無正之人云云○廂差系毛車青系東宮中宮乘御或

親王召之西宮記曰式部卿依一分召忝省乘鹿指系毛車云云又

○紫系毛車或有鹿或無鹿女御或女御代召之○廂柳廂差車大閣執柄親王

清華相國召之○廂柳毛車或只号毛車西宮記曰太上天皇已下四位已上通用非

忝議不近代無三口中傳鈔曰毛車束帶或直衣時乘之納言懸下簾

忝議不懸之○尾眉車或号尾眉車桃華葉曰網代如唐鹿有鹿号尾眉執柄

并太政大臣着冠直衣之時用之小直衣兼用又例あり又大將兼用銜抄

にみも○半部車桃華葉曰是猶網代大將之時乘之大臣攝錄之時

之中也

猶用之攝家大臣以前不打外金物云直衣非晴之時猶用之○網代同書曰
 襲之時石之下簾尋常也自雲客之時至大臣并攝關之時之用之各差
 別のり襲時大將乘用車号違物見攝家大臣以前不打外金物凡家打之
 當時八葉車大略同網代者歟○饒車或号透車云られいみ一賀茂祭之
 時饒樂器渡大路云○文車網代に文あり車なり諸家各被用其家
 紋也故号文車云花鳥餘情曰葵卷云凡車八唐庇檜檜庇毛車皆檜檜
 とりくく。厄眉半部網代等ハ皆ありはとり青未濃の下
 簾とかく網代ハ下簾とく字もどことども女房の乘用とく入りと
 八葉の車にと下簾とかくは幸ゆれいづもおせかりるなり也

みえり今世乗車普通之事ありは故に知人とりあり況於
 下愚乎雖然舊記所見斑々摘其二之要ありぬ又乗車路頭之禮且
 車副負數見弘安禮節相和可見也又下乗之進退作法諸家故實は
 輒々たるにてあり粗三中は傳鈔よみもとことし事繁多かりん
 略り深きれづにハ駢牛圖彼是くくみぬるもの之又或語
 云或有識之人云八葉車ハ車ハ輪木八枚あり事なり又檜檜毛車ハ
 以黒色糸ふとかがりるなりと云ふなり一之當然之作意を
 ありぬるなり蓋是太過説不足評者也それハ葉とハ文の名ニ
 厄眉半部網代の車ハ立板ハ付之必かり桃華葉葉ハと或立板文

小八葉或立板文大八葉とみくろり其檣柳と八本字蒲葵がらるる
筋抄に毛車檣柳かきとにハ管と刃ひらり事あり世に古車圖
卷ありしれと刀さるる人ハ八葉檣柳の沙汰一向無益之儀也奥に
羌系毛車其圖一輛以大概記之是職原抄に此名目出たりくい
あつる車々といひくえ西故よあつたり餘車と又可推知たりと
あらん

馬寮者左右馬寮也職負令曰右馬寮 右馬寮 頭一人掌左開馬調習
養飼供衛乘具配給穀草及飼部戸口名籍事助一人大允一人少允
一人大屬一人少屬一人馬醫二人馬部六十人使部二十人直丁二人

飼丁 又同兵部省條下曰兵馬司正一人掌牧及兵馬郵驛公私馬牛事
佑一人大令史一人少令史一人使部六人直丁一人矣 大同三年正月停
兵馬司併左右馬寮故具知於此寮也既牧令曰凡牧每牧置長一人帳
人每群牧子二人其牧馬牛皆以百為群又曰凡牧駒犢至二歲者每羊九
月國司共牧長對以官字印印左解上 謂股外 犢印右解上並印記具錄
毛色齒歲為簿兩通一通留國為案一通附朝集使申太政官矣 拾芥鈔
所見馬牛印二寸廣一寸五分 弘仁格 今案 武家方書札中馬印有之或
雀目結兩目結或引兩丸遠鴈等也是後世諸國牧印於其所各別あり
こみ多しり蓋今世一向馬印とらひあつたり又上古以諸國牧馬每

年八月貢進之依其所_レ_レ云之駒牽_レ其牧所見_レ左右馬寮式今世
駒牽ハ之冬_レり_レ雖然今也每年八月朔日自武家月毛馬二匹_レは
せの_レ舊例と追_レゆ_レや_レ或人此馬の毛色と晴_レ方_レに_レは_レく_レい_レく
た_レひ_レけん_レ葦毛馬なりと_レく_レり_レり_レり_レぬ_レは_レ八月毛と
と_レら_レり_レ故實と_レあ_レる_レゆ_レあり

御監者或云御監閑馬之意又一説御厩馬監騎射之儀也と_レり延喜
左右馬寮式曰四月廿八日御監駒式小月二テ寮頭以御馬名奏進御監御監十七日

執奏而後左右寮頭左右分_レ立_レ於御馬之前_レ云又曰五月五日節式左右各以奏
文附御監一寮奏載射官人以下官姓名一寮又曰同月六日競馬并騎射奏載所出之國毛色左右隔年互奏

式寮頭以御馬名_レ傳進御監則傳奏北山抄曰五月六日左右御監

進御馬奏大將不參者右大將兼奏右大將不參者案西宮記

左右馬寮御監事上卿奉_レ勅仰下寮官人石御助_レ無助之時外記仰官人近代例也

道遙院殿御説曰御監とハ書下_レと_レれ_レなり左右大將と_レり_レけ_レあり

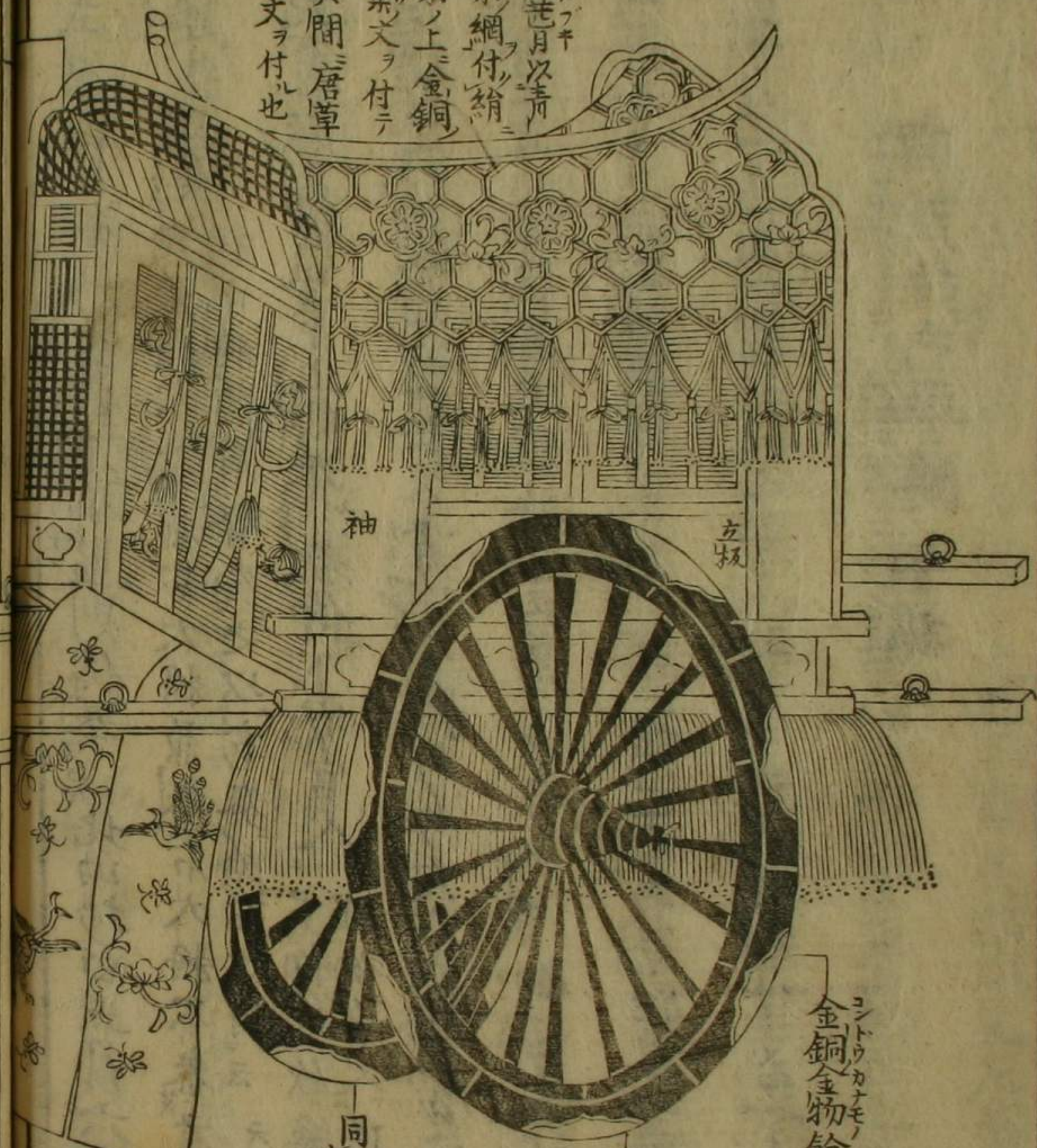
御厩者_レと_レ代_レり_レゆ_レふ_レと_レみ_レる_レり_レ今案御監之外左右馬寮の

別當あり_レ右馬寮別當今出川家之職也右馬寮別當三條正親町家

之職なり今出川家大將之時と_レり_レと_レ猶此職勤仕_レぬ_レり_レぬ_レり

廂差絲毛車圖 附榻

上芒月以青
系網付絹
系ノ上金銅
窮文ヲ付テ
其間唐草
ノ文ヲ付也

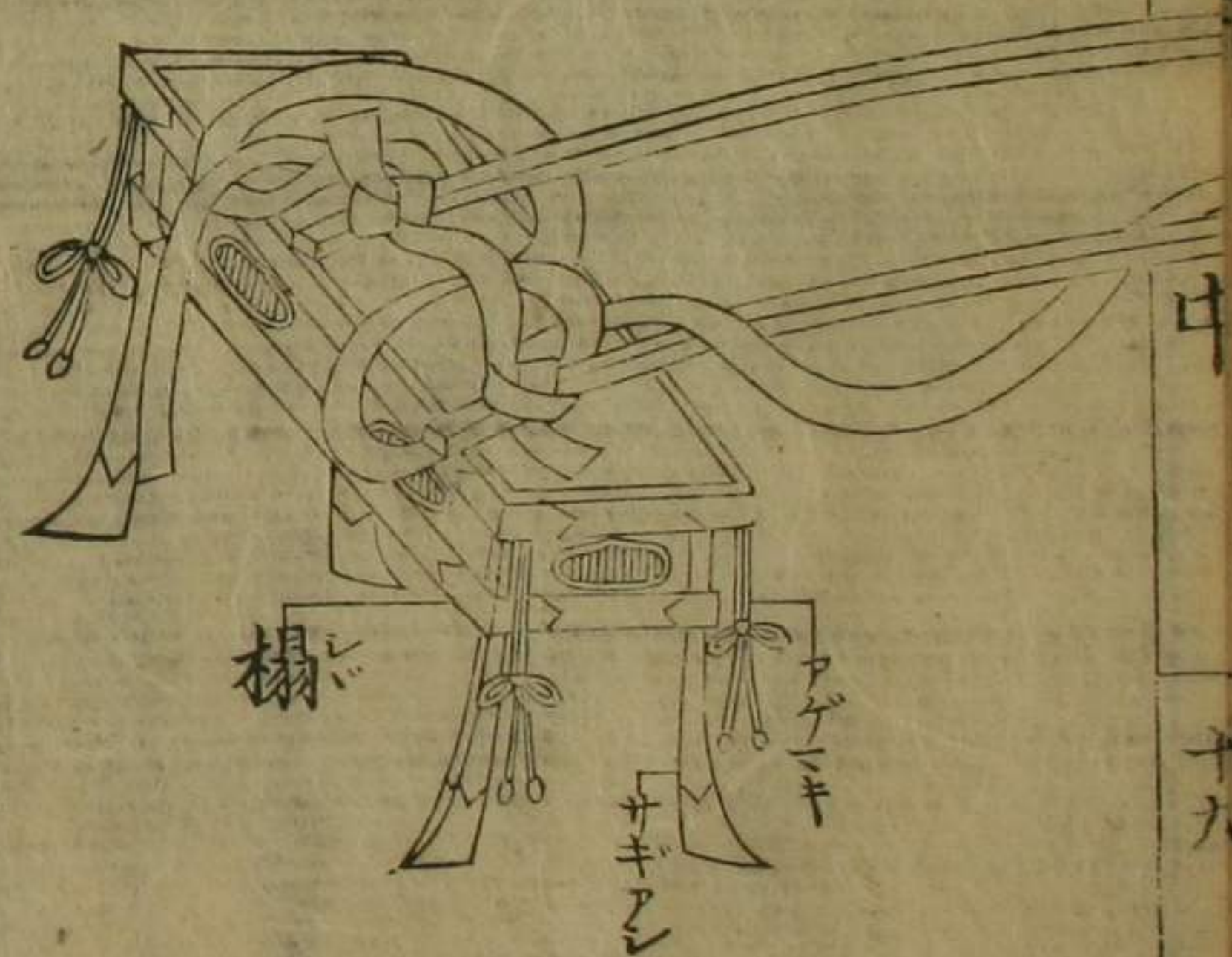


前後方同之

前後簾面青以薄青系
卷竹編之練系也孔雀丸文
繡ス緑薄青和錦棟綵平
組彫物金物有之裏青平絹
金物アリ疊縹絹清京延云

下簾青末濃有文紗
孔雀唐草繡アリ又
所ハ蝶アリ長七尺二寸
五分

榻鷺足有金物面青地
 錦縁四方伏組ア総角
 四角掛之云



攝家清華羽林名家之品 附御昇進之圖

攝家ハ近衛九條二條一條鷹司の五家なり上ニ志取と云々
 人臣攝政ハ忠仁公に云々ゆり又關白ハ昭宣公最初なり云々
 以來攝關に云々事と先途と云々之或納言之時云々
 至大臣近衛大將と兼任し云々も攝政關白なり云々強規
 摸と云々ハ故ニ号攝家或号執柄家とのなり

右近衛權少將

相當正五位下也御元服之時任少將叙正五位下
 直正四位下に叙し云々或三位少將或二位少將
 之例あり

右 左
近衛權中將

權中納言

相當從四位下也雖然少將之時正四位下也故
此時叙三位不任參議直任中納言猶中將
と叙のよ。二三位中少將中納言中將等是と
上達部次將といふ宰相中將も同一

相當從三位也雖然或正三位或從二位は叙
のよ委前段よみより于時兼大將は例
わり大將は多大納言之時ハ兼官なり

權大納言

兼右近衛大將

相當正三位也雖然于時正從二位也凡大將と
兼任は攝家大納言之中上首次第小
兼任は多々大將なり次被任大臣之
時猶大將と兼てめめなり

大臣
内大臣
右大臣
左大臣
太政大臣

内大臣者令外官也故無相當左右大臣相當
正從二位太政大臣相當正從一位但太政大臣者
有德之撰は常不任之又正一位も現在ハ
人叙は凡轉任之次第内大臣右大臣

左大臣大政大臣也雖然久不歷次第一々直任之例わり又有大政大臣之時任内大臣之例邂逅にみたり

或内大臣攝關或左右大臣攝關或太政大臣攝關各例有之職原抄曰攝政關白大臣兼之或去大臣職帶之東三條入道攝政已來例也云又執柄家一座之宣旨云とく上臈て一座の宣旨にちよんて干時藤氏長者也次第先補

攝政
關白

干時藤氏長者

攝政次補關白は是順路なり詳攝政關白之篇よみたり

凡攝家恒例御昇進如此又臨時兼官不定或有春宮坊之時大臣兼東宮傳又大中納言兼春宮大夫中少將同權亮と兼はふ或有中官職之時又大概むろ

清華こハ久我三條轉法輪西園寺德大寺花山院大炊御門今出川等之花族かり又今世廣幡醍醐等两家又此一列也云職原抄曰當時雖皇子皇孫賜姓昇大臣大將若執柄息中雖不遂先途令相續將相者即又清華勿論事歟云わりのとく親王攝家とわあひく英雄名家

ふれが稱美ありき清華といひ又公達家とて花族といひ

待從

相當從五位下也童形之時任待從叙從二位下
次加級正五位下なり

右 左 近衛權中將

相當從四位下也元服之時直任中將叙從四位下
然らば叙從三位あり或叙二位中納言
叙留一の例あり

權中納言

相當從三位也雖然于時正三位也近代不歴參議
直任中納言然らば蓋是舊儀にありしもの
或中納言之時兼任大將之例あり是規模之
儀かり

權大納言

兼右近衛大將

相當正三位也但或從二位或正三位中と叙る
此時大納言の上首次第にありて右大將と兼
任し或至大臣猶兼任し然らば規模の儀
かり

大臣
内大臣
右大臣
左大臣
太政大臣

相當并轉任之次第或直任之儀攝家之篇
にみたり但攝家よりハ昇進よりハ
にききあつて清華にハ大臣の大將より
はふと先途よりなり

凡清華恒例御昇進かのごとく又臨時の兼官よりとつてハ大概
攝家にあり

羽林家ハ侍従より左近衛少將中將と經歷より次第に昇進
しはふ家くと羽林家とヤハリ近衛府ハ唐名と羽林とヤハリ
蓋羽林家中又勝省あり中院三條正親町三條西此三家ハ大臣

任の事と先途と也但大將と兼任しはふとヤハリ故に俗
に大臣家と号し此外の羽林家之中又名家之中邂逅に大臣登用
之家ありとごとも通例ありとされハ不称大臣家也三家昇進之例
尤の

侍従

相當從五位下也童形之時叙從五位下云之叙
爵也下勅之元服之時從五位上侍従方り

左近衛少將
右近衛中將

少將相當同侍従也五位之時遷任少將より
叙四位之時去職之例也雖然近代皆叙留

官取身

七〇

のい次に中將。中將相當從四位下也。于時或從上或正下に叙る。

相當正四位下也。任參議之時猶中將如元謂之宰相中將。然而從三位も叙せらる。

相當從三位也。又叙正三位次從二位に叙る。あふ時宜まゝに叙る。

參議

權中納言

權大納言

大臣
儀同三司
内大臣

相當正三位也。雖然于時叙從二位次正二位に叙せらる。若被叙從一位之時辭大納言たまふ方り。

各無相當也。權大納言も被任内大臣もわり又任准大臣儀同三司。然而被任内大臣もいり可依時宜也。但准大臣も多叙從一位辭大納言。然而准大臣有宣下云。

凡大臣家御昇進の如く。又臨時兼官不定舊例勘知らる。

又羽林家之中其家勝劣に^ハハ^シ昇進之次第并先途有差別也或以
大中納言為先途或以^テ赤議為先途或以^テ散三位先途と^ルハ^シ家^ノイ^ハシ
有之各侍從少將中將と^ルハ^シ其先途と^ルハ^シ通^ルハ^シ故号羽林家なり但
ひ^ハし^ハ諸大夫家と^ルハ^シと^ルハ^シ羽林家の^ハハ^シ昇進^ハル^ハ家あり
未^ニ職原抄^ニよ^リて^ハハ^シ

侍從

相當見上童形之時叙爵元服之時從五位上
侍從同前但其中松木中山正親町等^ハハ^シ
如大臣家童形之時侍從云

右近衛權少將

相當見上侍從より任少將次中將に任ぜし
政^ノなり凡中將より任^ニ赤議有數道^ノ依家
柄ありと^ルハ^シ或中將之時任^ニ赤議猶中將如^ク之
家あり或中將之時補藏人頭中將如^ク之次去
頭任^ニ赤議猶中將如^ク之家あり或去中將叙從
三位次叙正三位依^テ三位^ノ勞任^ニ赤議之家あり
或去中將叙^ニ三位先途と^ルハ^シハ^シ家あり各其
家其先途下記^スル

参議

相當見上或不任参議以二三位先途より
 の家、河内梅園花園五辻此外新家はく
 八世東久世愛宕植松風早押小路町尻葉川
 石山高野石野六用等大概二三位の
 よりとどと或依奉公之勞参議納言と
 拜任しあふとわいばあく其先途より
 ゆれ候なり又樋口堀川綾小路山本家の
 大概先途参議のよりと是又近代納言に
 任る家あり可依時宜事あり

權中納言

相當見上或以中納言先途よりなる家く
 水無瀬七條下冷泉中園梅溪櫛笥千種裏辻
 家等のよりと

權大納言

相當見上四辻敷二家ハ参議中將より任中
 納言大納言いしのみよりと先途より
 のよりと之松木中山正親町庭田姉小路今城
 園東園油小路鷺尾家ハ頭中將より参

官職知要中

議中將中納言にシみ大納言ト先途ト
 一シあふシ但此中カ或叙從一位或准大臣
 或任内大臣ナなシふシとワり時宜イ
 小シねシるシ事アリ清水谷シ滋野井シ橋本阿
 野ア飛鳥井ナ難波野シ官シ冷泉シ藤谷シ六條シ岩倉
 持明院シ武者小路シ大官シ園池シ四條山科シ西大路シ
 去中將叙三位依三位勞任春議或中納言或
 大納言と先途とあシ中シ此中少勝劣あり
 かり又或春議先途之家或中納言先途
 家又大納言と辨任とあシとあり但大納
 言先途之家大臣に任じるはかりと
 三司之或春議大納言之職叙從一位或儀同
 三司之宣下ありと志るは家に先途
 たりと志るのかり仍只大概と
 志る計也

大臣
 儀同三司
 内大臣

各相當たり或儀同三司或内大臣に任じ
 るは多は是依當帝

外祖外舅之賞也

凡羽林の家く御昇進ののこゝ此外臨時兼官例より

名家諱夫依其家の勝劣昇進之次第并先途差別あり或最初任侍

從次は辨官藏人頭補一次第昇進のみ家あり或最初任尉佐

に任ド藏人辨官と經歷一頭に補るる昇進一のみ家あり但庶流

新家或雖任辨官不補藏人給多不任辨或任四府佐八省輔次第昇進

のみ家あり或云名家者謂以文學才名有登用之家云凡藏人

辨官職者無文才之人居之譬雖棄其家非其器者去職任他官之例也

職原抄曰至于今非其才補其職者忽招耻辱殆失於身者也頭及五位

藏人必聽着林禁色并賀以前被下

宣旨例也但自本聽林禁色之人更不及

宣下

所謂聽禁色者今世所用只下襲表袴或奴袴等

如公卿有文之儀也蓋古記所見諸禁色云云

とみたり

日野流

相當見上童形之時叙爵元服之時從五位上

侍從任叙次辨官遷任一のみ祖當流

新家之中はと任辨官給家もあり雖欲補

藏人ありと又一向辨官はと任はらばる家

あり下記之

侍從

相當左右少辨正五位下左右中辨正五位上左右

大辨從四位上也職原抄曰五位辨叙四位之目去

其職者也近代多叙留又中辨者多分四位也

少辨者多分五位是近來之例也又中少辨之

間權官一人必任之仍謂之七辨云今案日野

烏丸柳原廣橋家最初侍從次左右辨官補

藏人而歷貫首謂之頭辨于時又新家

之中日野西東松勘解小路家同雖被任辨官

藏人に補なりと又竹屋三室戸外山豊園北

路等新家辨官藏人と經と或四府伏或八

省輔と任しなりと

相當見上日野烏丸柳原廣橋家辭貫首

任春議猶兼大辨なり又新家直不任春議

叙從三位次正三位然而或任春議先途

多或任中納言なりと

右 有權官
大 中 少 辨

兼補 五位藏人
藏人頭

新家昇進之順路侍從
四府伏或權

八省輔

春議

官職考要中

權中納言

相當見上自赤議任之のふかり

權大納言

或叙從一位

相當見上日野烏丸柳原廣橋家以大納言為先途或叙從一位又遷近内大臣に任じのふ家あり

勸修寺流

勸修寺其露寺葉室万里路清閑寺小川坊城中御門等七家童形之時同前元服之時從五位上以延尉仇為初任次任辨官藏人補

延尉仇

の所謂延尉仇者為左右衛門權仇之人被蒙檢非違使之宣旨曰之延尉仇也又新家之初任と大概相同雖然辨官藏人と經歷一なり

次辨官藏人と歷のふ日野家と同千時延尉仇如元日之三事兼帶

官職考要中

此一

右 有權官
大 中 少 辨

兼補 五位藏人
藏人頭

新家昇進之順路
大概如日野流新家

系議

重職なり規模之事也。芝山梅小路池尻堤
穗波岡崎等新家ハ辨官藏人と經ぬりて
加階加級一々叙三位或奉議納言にせし
みぬ但少く勝劣あり

相當見上勸修寺中露寺葉室乃里小路流
閑寺小川坊城中御門家ハ群貫首任奉議猶
兼大辨多新家昇進上にありぬ

權中納言

相當見上次第日野流よりあり

權大納言

右同新日野流の所點換あり

或叙從二位

凡日野勸修寺兩流臨時兼官中官春宮亮大進少進云

羽林名家之外

高倉

童形之時叙爵元服之時從五位上侍從四位之時八省輔に任り叙三位歷
奉議至大納言たるより先途よりあり

西洞院 平氏

平松 同上

大概同右少納言兼侍從次第昇進しぬひ以中納言先途よりたぬふ
又新家長谷交野石井家昇進之次第本家より同し但先途三位
或任春議のみありと見ゆ

富小路

五辻 源氏

高丘

櫻井

竹内 源氏

山井

入江

右家より互少勝劣あり仍昇進之間遲速不同雖然至三位先途より
ぬふ此中竹内山井入江等家麻六位藏人叙爵而昇進しぬふとみえ

より但依時議直被叙爵云餘又効之

儒門 紀傳道

高辻 菅氏

東坊城 同上

五條 同上

唐橋 同上

元服之時六位文章得業生に補し獻策のち叙爵し少納言侍
從大内記然而式部少輔文章博士とてに兼官して叙四位昇三位悉
官其後歷春議至大中納言為先途自三位之時至先途兼任式部大輔
ぬふ又新家清岡桑原家最初六位叙五位任省輔ぬふ先途三位
歟

○同 明經道

舟橋 清原氏

伏原 同上

至三位先途より少但四位五位之時少納言侍從明經博士と雖も次第
にのりりのみ其中舟橋家兼任式部少輔のみ伏原家には主水正次
兼少少且當家の歴六位藏人叙五位昇進のみ又新家澤初任又
おろし先途のしるべきゆゑ也

○神祇道

白川 王氏

藤波 大中臣氏
伊勢齋主

吉田 卜部氏

萩原

白川家童形之時叙爵元服之時從五位上侍從次少將四位之時中將然而二
三位にありぬと先途と又伯職之事必不限三位之時雖四五位之時
被兼任之可依時宜事也但叙三位之時去中將也當家花山源氏也故不任伯之
稱源姓任伯之日復王氏の例なり藤波家先途同上元服之時五位神祇
權大副兼左京大夫然後轉正副至三位猶被帶之例也吉田萩原家至三
位為先途其中吉田家は五位之時より至四位侍從四府依に任に至三位轉
督猶兼侍從のみ又萩原家雲客之時或四府依次京職矣至月卿或任
八省大輔
○陰陽道

五御門 安倍氏

先途吉田秋原家に在り但當家の歷六位藏人昇進しぬ四五
位之時兵部少輔兼陰陽頭たり又新家倉橋家の四五位之時或ハ
省少輔或四府佐たり不任陰陽頭なり是も最初ハ六位藏人より不
たぬハハ九歴六位職事之人むうハ六年侍中ハ勞づく預巡爵より
地下とかり其後依人還昇ありと後世ハ堂上之息ありハ六位藏人
より叙爵し直ニ聽昇殿例なり地下諸大夫ハ至千極薦預巡爵
之時下殿上之例也今世慈光寺小森等之輩ハのどハ但雖五位以後
以藏人五位為規模云以事次ありぬ

以上諸家官位御昇進之順路如此歟又高倉家より以下ハ昇進互相異
故別記之凡可准名家云但其中家の勝劣ハ差別あり蓋委依不知
其尊卑輕重不辨次第之列只任便宜ありぬ又各稱号之傍に其姓加
はるハ藤原氏之外他姓也藤氏ハ依事多略しありぬ

僧官位相當并與俗位相當任叙之濫觴

或人曰原本朝佛法僧興隆之基欽明天皇御宇初此法傳日域推古天皇以
後此教盛行且始令置僧綱檢校僧尼然而上自群公卿士下至諸國黎民仰
以無尊長因傾盡資產以建寺塔捨田園以為佛地至聖武御代多建大寺
又令七道諸國立國分寺其後及延曆貞觀之二朝被定僧綱位階曆代漸弘

諸宗云今案諸宗者八宗并新宗也拾芥鈔曰八宗律乘俱舍成實乘

法相四論三論天台華嚴一上真言秘又曰東大寺兼學八宗但三論華

嚴律為宗山階寺法相為宗比叡山天台為宗又真言為宗又律宗受戒是也

三井寺天台真言為宗仁和寺醍醐寺各真言為本宗以東寺為本俱

舍者諸宗先可學之云又新宗禪淨土本願寺日蓮宗等以下也凡僧官

位者元以八宗之僧清撰所任叙也雖然淨土本願寺日蓮宗等又被任僧綱也

是為天台末派之故也云凡僧尼之事掌治部省玄蕃寮也仍其職掌詳見

令條及延喜式等也其官位相當并與俗位相當又始被任叙之僧記序九

○僧官位

僧正大正權

僧都大正權

律師正權

以上謂之官

法印

法眼

法橋

以上謂之位

右惣謂之僧綱

○官位相當

法印大和尚位僧正

法眼和尚位僧都大少

法橋上人位律師

傳燈大法師位或凡僧

傳燈法師位從儀師

傳燈滿位誦持位

傳燈住位准六位

傳燈入位准七位

右相當見職原抄後附

三代實錄曰貞觀六年二月十六日癸酉制定僧綱位階詔曰國典所載僧位之制本有三階滿位法師位大法師位是也僧綱凡僧同授此階位號不分尊卑無別論之物意實不可然仍彼三階之外更制法橋上人位法眼和上位法印大和尚位等三階以為律師已上之位且法印大和尚位為僧正階法眼和上位為僧都階法橋上人位為律師階是百勅遣泰議大藏卿正四位下源朝臣生從五位下行少納言兼侍從藤原朝臣諸葛等依式率所司於西寺綱所任僧正已下律師已上十六人云今案自是以往於僧位有舊制蓋貞觀更制三階如右文仍舊制皆次法橋上人位之下所謂舊制者職原抄後附曰延曆十七年九月九日治部省解僧位

與俗位相當僧綱牒備僧位有五階八位住位滿位法師位大法師位即准此又無位僧當八位入位僧當七位住位僧當六位滿位僧當五位法師位僧當四位大法師位僧當三位已上云今案是則舊制也但貞觀以來次法橋上人位之下云

與俗位相當

延喜治部省式曰凡僧綱轉物者僧正准從四位大少僧都各准正五位律師准從五位並准職事給之今案是光仁天皇御宇所令定給也云職原抄後附曰延喜之比給錢於僧綱之時僧都准四位律師准五位給之是拾芥抄弘安禮節曰僧中禮事僧正可准泰議法印法務僧都可准四位勳物也殿上人

法眼律師可准同凡僧可准同諸寺三綱及八幡社官僧綱可准地下四位

諸大夫云今案職原抄後附テシテ點檢法眼律師准五位凡僧准六位諸寺無同字

三綱及八幡社官僧綱准地下五位諸大夫以四位僧正可准三位權僧正可准二位

一又釋家官班記曰大僧正可准三位大納言中納言僧正可准二位權僧正可准一位

是則後醍醐院御制也云但可依其久敷桃華葉曰弘安禮僧正者准

議也然而南都兩門跡山門寺門之三門跡等者其門下各有清花僧正顯

如君臣之禮然間雖為同僧正爭無其差異哉依之中園相國之所為攝家

僧正可准大臣清花僧正可准大納言其且之會釋計也非公儀之上者

一同難用之仍自俗家書札等可有臨時之處分

僧綱盤飴

○大僧正

釋家官班記曰大僧正釋門棟梁也尤為規模宗長者大旨任之於東寺

者為一長者之人大略被登用至山門者天台座主清撰異乎他之間輒

無補任之人仍雖非宗長者可然之輩多以令任之云○大僧正之初例

同記曰行基藥師寺僧法相宗和泉國大鳥郡人高志氏玄特三藏孫弟

子也天平十七年正月廿十日任之年七十六是大僧正始也同廿十年正月十四日

聖武天皇并光明皇后受菩薩戒即改大僧正号○山門大僧正初例同記曰

良源善善惠和尙處曆寺座主近江國淺井郡大井鄉人木津氏天台理仙

弟子真言宗覺律師弟子天元四年八月廿日任之元僧正于時座主天皇御施捨加持

賞驗○東寺大僧正初僧中初例抄曰寬朝号遍昭寺寬空僧正弟子寬和

二年十二月廿五日轉任云七十一于時東寺一長者兼法務云一品式

部卿敦實親王二男母元大臣時平公女也雅信元大臣重信右大臣兄也

○僧正

釋家官班記曰僧正任權僧正之輩次第身轉任強非難儀就公請勞等

有息許款但修驗之輩凡卑之類等雖被許極官不及次第昇進款

重有施効驗等又不能左右者也○僧正盤飴同記曰觀勒百濟國人也

推古天皇十年來朝聖德太子曰昔在衡山時此僧為吾弟子云日本

書紀所見推古天皇二十二年夏四月戊午詔曰夫道人尚犯法何以誨俗

人故自今以後任僧正僧都仍應檢校僧尼壬戌以觀勒僧為僧正以觀勒

德積為僧都云○山門僧正初僧中初例抄曰通昭号花山僧正嘉祥三年

出家入道貞觀十一年叙法眼直叙元慶三年權僧正仁和元年十二

月廿三日轉正俗姓太納言良岑安世卿男藏人頭元少將宗貞入道也

○東寺僧正始同抄曰真濟弘法大師弟子兼和十年任權律師仁壽元

年任少僧都同三年任權大僧都齊衡三年十月十七日轉任于時一長者直任云俗姓

彈正忠正六位上紀國子官班記曰東寺長者号高雄僧正世稱起僧正云

○權僧正

釋家官班記曰權僧正不勤任公請之輩解除雖有其例不可然之事也
法皇御治天之時堅被停畢尤可然欽抑於武家祈禱之輩雖未公請依
彼執奏被登用之○權僧正始僧中初例抄曰壹演戒明和尚弟子後入密

宗真如親太子身子貞觀七年九月五日任元太官班記曰藥師寺僧真

俗姓內舍人大中臣正棟入道也○山門權僧正始僧中初例抄曰遍昭

元慶三年正月日自法服任權僧正也宣命云天皇自皇太子之時朕身奉

相讓勞云○東寺權僧正始同抄曰聖寶源仁僧都弟子寬平六年

十二月廿八日任權律師同九年轉少僧都延喜元轉大僧都同二年三月

廿三日轉任云官班記曰醍醐寺本願人号尊師弘法弟子太政大臣大友

皇手後兵部大輔高野王男也

○法務 僧正兼職也

釋家官班記曰法務二人有之東寺一長者必為正權法務他寺僧隨時
補之隨分顯要之職也山門唯顯之輩補任有例近則靜明心聽等也天

○法務盤飭僧中初例抄曰觀勒推古天皇二十二年夏四月僧正法務同

日云○山門法務始釋家官班記曰遍昭延曆寺貞觀十一年二月補年

五十五云○東寺法務始初例抄曰真雅貞觀十四年三月十四日任法務

東寺執印法務初也○大僧正法務例寬和和尚天字七寬朝寬和二

五深覺治安三十見上○僧正法務例觀勒真雅見上○權僧正法務例

二廿九

聖寶延喜寬寧天德○大僧都法務例益信貞觀如無兼早○少僧

都法務例慈訓天平勝聖寶寬平○律師法務例行信天平十延壽七三

貞觀十六○權律師法務例聖寶補日○正權法務之事官班記正法務

僧正真雅權法務大威儀師延壽貞觀十四年三月十四日各補

之自今以後一長者必正法務也寺僧為權法務是法務二人始也○權法

務二人相双例法而權大僧都雲雅德治二正法中大僧都相助同年十

補○長者不經法務例僧正宗元慶三正任東寺寺務雖然下兼

為長者不任此法務真雅僧正任執中法務之後號紫金臺寺行安二十

職之初例也○掬法務始御室覺性法親二十三初任惣法務

給○執中法務沙汰事康和三年十二月十二日圓宗寺法華會行之次

○大僧都

仰云於執中法務者東寺沙汰也於署者可有次第矣

釋家官班記曰大僧都四箇寺頭密之僧解除隨時加于法而權大僧都之

上也云○大僧都濫觴同記曰道昭文武天皇二年十二月十五日任大僧都

始也河內國丹治郡人俗姓船連父小錦下惠釋○山門大僧都始僧中初例

抄曰圓珠元慶七年月日叙法橋同十月七日轉法眼寬平二年庚十二月

并亦任大僧都元法眼讚岐國人依大衆奏狀任之官班記曰謚号智證

大師○東寺大僧都始僧中初例抄曰空海大唐惠果阿闍梨弟子天長

元年三月十四日直任少僧都請兩經法賞云同四年冬轉大僧都云

門跡傳曰空海姓佐伯氏父由公母阿刀氏讚別多度郡人為求法延曆廿
三入唐大同元八月皈朝弘仁十四正賜東寺天長三十月奏聞而建東寺
塔弘仁七六開紀別高野山為入定之地延喜廿一十月賜謚弘法大師

兼和二年入定年六十三

○權大僧都

釋家官班記曰權大僧都俗姓是常之人稽古修學之輩公請有勞之族
各依一途之寄被解除者也近代住侶等猶以令任之上者殆墜地畢不便

云○權大僧都始釋家官班記曰真濟仁壽二年九月任之元權少詳記

僧正之篇○山前權大僧都始僧中初例抄曰延昌天慶八年任律師同九年

補天台座主天曆三年任少僧都同五年七月廿八日轉權大僧都同十年兼法

務天德二年任僧正去照律師身子謚号慈念加賀國人也

○僧都

釋家官班記曰德積高麗國人鞍部氏推古天皇二十二年四月壬戌任之

今案

官班記初例抄等所見德積之外僧都不見追可勘

○少僧都

釋家官班記曰少僧都四箇寺顯密之僧解除加干權官之上也○少僧都

始同記曰義成天武天皇三十二年十二月戊申任是少僧都始也○東寺少僧都

始同記曰空海天長元年三月十四日任之○山前少僧都始同記曰圓珍寬平

二年二月廿七日任委見大僧都之所

○權少僧都

釋家官班記曰權少僧都必無清撰之沙汰頭密名僧者就公請之勞依師匠舉奏可有其沙汰歟又云攝錄息直任權少僧都自他門古來例也近代權大僧都之例有之云○權少僧都始僧中初例抄曰道雄兼和古年任律師嘉祥三年十二月任權少僧都弘法木師灌頂弟子真言花嚴法相兼學之○山門權少僧都始釋家官班記曰尊意兼平五年十月十三日任權少僧都延曆寺座主法性房又門跡傳曰俗姓丹生氏平安城人又曰應神天皇之裔也近江國人也

○律師

釋家官班記曰律師四箇寺頭密之僧解除加于權官之上也見少僧都之篇

○律師始同記曰善性元興寺僧文武天皇二年三月十八日任律師○東寺

律師始同記曰實惠兼和三年五月十日任律師年五十一同七年九月十八日

少僧都任東寺長者第一弘法弟子僧中初例抄曰禎尾僧都讚岐國人

依約氏○山門律師始官班記曰喜慶應和元年十月廿八日任元權律師延曆

寺座主另味和向

○權律師

釋家官班記曰權律師必無清撰之沙汰頭密名僧者就公請之勞依師匠舉

奏可有其沙汰歟見權少僧都之篇又曰灌頂事者勅願延緣灌頂少阿闍梨

官職口要

被宣下之也二年勤任之後任權律師○權律師始傳中初例抄曰威榮
 天長三年三月十五日任權律師元興寺僧○東寺權律師始釋家官聖記
 曰真濟美和十年十一月九日任俗姓見僧正篇○山門權律師始同記曰義
 海美平五年十月廿三日任六十四

○法印 法眼 法橋

三代實錄曰貞觀六年二月十六日中略大僧都傳燈大法師位真雅抄法

印大和尚位僧正尔少僧都傳燈大法師位明詳抄法眼和上位大僧都尔律師

傳燈大法師位慧達和法眼和上位少僧都尔律師傳燈大法師位真紹和

法眼和上位權少僧都尔傳燈大法師位最教和願曉明哲和法橋上人

位律師尔傳燈大法師位慧獻和真慧正進道昌和道詮東照常曉和法橋

上人位權律師尔任賜云以上云之官位相當或有不相當○法印大僧

都始僧中初例抄曰永圓長元三年八月廿一日叙法印東北院供養法成寺

別當賞也法印大僧都之例以多為始云同四年十二月廿六日任僧正同六

年轉大僧正村上天皇孫王教平親王男也○叙例品々釋家官班記曰大臣

息通滿直叙法眼也猶子隨本撰有用捨法皇御治世之時抄察抄

使公故卿子有勅許和森講成經卿和無勅許以上可然之輩次第大

前相國猶子和子同和猶子和概如此僧綱後次第昇進如常抑直叙法眼之次或任少僧都或任大

僧都和攝錄孫子大和或又不經正員直叙法印有其例慈鎮和尚公圓僧正

三條入道 等也直任少僧都之人或轉大僧都或叙法印共其例多○

大臣孫子直叙法眼多分被許之但依人可有捨哉以上此等條

大概也於他門事者不存知之間先例等不及注載者也○又有散位

僧綱或諸門跡坊官之輩自法橋法眼至法印坊官叙法印尤規模事

也坊官 慈鎮和尚坊官 覺寬仁和寺坊官 等其初也於今者為流例云

○九僧

是三綱僧也必非云九卑之僧經年薦或可補僧綱之僧也職原抄後附

曰傳燈大法師位或九僧 然則非九卑之僧必矣又有職九僧弘安禮

節秘鈔云九僧三綱僧上座寺主 也阿闍梨內供奉已講以上有職九僧

也禁秘御抄云九僧公請不能子細又御修法伴僧之外宿裝束惣不入林

中云

○威儀師

從儀師

釋家官班記曰威儀師和銅七年甲子二月五日興福寺金堂供養之時尤

右行事傳燈浦位僧勝雲源操等始任威儀師云光仁天皇寶龜二年

閏三月壬寅僧綱請置威儀師六員許之云延曆十三年九月二百延曆寺

供養記曰奉行僧威儀師 始賜赤袈裟此時威儀師年七 也從儀

師賢業 年六 綱所著赤袈裟監觴也弘仁格曰從儀師人永為恒例

十年十一月太政官符 ○大威儀師始延壽貞觀十二年十月任之同十四年

三月十四日為法務十六年十二月任權律師登藻シノ層日大威儀師者必叙法橋其外威儀師從儀師以下三綱サンカウ上座寺主都維那不被許僧シ各有權官

綱但仁和寺諸門跡三綱宿老後叙僧綱是皆諸院主免許也云又云威儀師從儀師者朝家之器也依為綱務御室被召仕之威儀師宿直裝束物用之上法服下白練裳也下着指貫是宿直裝束之儀也袈裟者精好五條也公請奉行之時着赤袈裟裝束法服也綱務并法務相從御前供奉之時用赤五條也

○已講 內供 阿闍梨 以上具之有職

已講或号探題二會六月三會法花會大無會天台灌頂論義之時

出其題受請以後稱擬講勤仕以後号已講然後一可被正負僧綱云

但依人隨人先任僧綱之後通講其例多云詳見官班記○內供者內

供奉十禪師也所謂十禪師監饒續日本紀曰寶龜三年三月丁亥禪師

赤南廣遠達延秀延惠首勇清淨法義專敬永興充信或持律或足

稱或着病或着聲詔充供養並終其身當初稱為十禪師其後有關

擇清行者補之矣云玄蕃寮式曰凡每年起正月八日迄于十四日於大極

殿設齋講說金光明最勝王經請僧三十二口沙彌三十四口其講師者

經興福寺維摩會講師者便請之讀師者內供奉十禪師及持律持

經久修練行三色僧多通以請用下畧○阿闍梨大釋家官班記曰阿闍

梨者被寄置諸寺以其闕補任被下官符也而貴種之人別而限其身某可授傳法灌頂職位之由被下官符以之稱身阿闍梨云

慈忍和尚 諱尋禪妙法院座主 天祿四年三月十九日為一身阿闍梨 九條右大臣息也

是其監觴也是又大臣息等有其例遂臨時受戒之輩大旨補之後上

古者信慶 中納言敦忠卿子 如源仁義 西園寺入道相國息 尊惠 本院尤大臣孫 公之子

同 尊教當世慈嚴等也抑於此職者僧綱前後先例不同也○僧綱

之後補阿闍梨例僧中初例抄曰法橋教圓長元七年十二月十六日阿闍

梨宣 于時權大僧都 法性寺御八講一座說法御感云長曆三年三月 于時法印 大僧都 是伊勢守藤原春忠二男○九僧勤仕

月十二日任天台座主 于時 檢校 永万二年七月一日於高野山御堂御

大阿闍梨例宗賢阿闍梨 于時 檢校 此外又有七高山阿闍梨是各別之義也

塔供養大阿闍梨 云 此外又有七高山阿闍梨是各別之義也

○上座 シヤツガ 寺主 都維那 以上曰 之三綱

延喜玄蕃式曰凡諸大寺三綱者省察 謂省者治部省 察者玄蕃察也 共知補任云

又曰凡延曆寺三綱一任之後任諸國講讀師其上座寺主任講師都維

那任讀師又曰凡諸寺以別當為長官以三綱為任用 云 延喜藻屑云寺

社三綱者上座權上座寺主權寺主都維那權都維那以上六人也於其

寺社有法會者必三綱隨所役也庭儀時上座執綱役寺主執蓋役勤

仕之上座若不私有指合時權上座可勤之權上座於有指合者次第々々

次人可_レ与_レ奪_レ是寺社役大法也隨其寺社之例或會_レ行事或樂_レ行事舞_レ童_レ行事是皆三綱所_レ役也又云仁和寺諸門跡三綱宿老後叙_レ僧

綱云

寺務

蚤藻屑曰仁和寺長吏者寺務也此外別當有之云又云金剛峯寺野高

者御室進止也但東寺長者被_レ寺務者也又云醍醐寺者座主被_レ寺

務也私曰興福寺者一乘院大乗院門跡上首次第被_レ寺務也又東大寺

者勸修寺門跡被_レ寺務云

○檢校

蚤藻屑曰六勝寺

法勝寺 尊勝寺 最勝寺 延勝寺 圓勝寺 成勝寺

惣檢校者御室也私曰當時

六勝寺悉絶又云山門横川檢校有之又云高野山熊野山那智山等

檢校聖護院門主被補謂之三山檢校也

○別當

蚤藻屑曰於仁和寺有別當但別當及寺務云又云東大寺者東南院

西室尊勝院被補別當云又曰興福寺者一乘院大乗院等諸院家

多被補又云北野社別當職者竹内門跡代々相續也又云六勝寺各有

別當私曰旧吉別當小野別當八幡別當見古記

○座主

蟹藻屑日山門三門跡梶井青蓮院拜任座主又竹内門跡同拜任

云僧中初例抄醍醐座主私日石山座主見古記

○長者モウシヤ

蟹藻屑日東寺長者也凡僧別當者長者下三寺務ヲ申沙汰也○

僧中初例抄有二三四長者云

○長吏モウシ

蟹藻屑日園城寺三井長吏者聖護院圓滿院實相院被拜任云

私日古記横川長吏有之

○執行シユギヤ

私日祇園執行清水寺執行于今有之古於六勝寺各執行有之

法勝寺執行能圓之類也

○勾當コウタウ

私日勸修寺有之或僧云表制集第三先充都師於勾當云

○專當センタウ

私日園城寺有之古一來法師專當云或僧云澄禪上人記日行

事專當法師原ナトノ者被駈使奈良邊中綱小綱等類欵

○堅者イツレヤ
本音シユウ
但リツ名目

山門南都二季大會晝被行八講夜被行堅義此時登高座与

問者論義謂之豎者近代經年時々被行之自十月朔日至十日凡一夜以二人為豎者至近世及數人又無八講之時行豎義謂之別處豎義頗非正義已上釈家之口受任僧侶見官班記

○注記

大會豎義之夜問者豎者令論義之條悉注記之而今見探題題者見畢而判斷是非右同任僧侶見官班記

右職原抄補遺曰依寺不同私案自寺務至執行各一寺為棟梁也但依寺所用其高下不同者欵勾當以下之職者非謂一寺棟梁依時補之職也

○大師 傳教 慈覺 弘法 智證 慈眼 興教 圓光

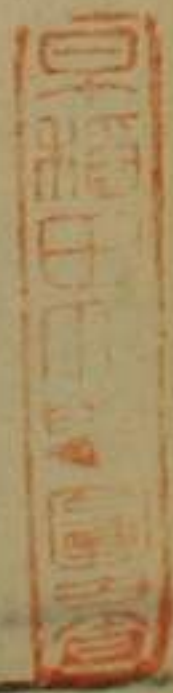
初例抄曰三代實錄云貞觀八年六月十二日酉勅天台大師最澄賜法印大和尚位号傳教大師同日官府云天台座主圓住賜法印大和尚位号慈覺大師准大唐南岳天台兩大師例賜謚号本朝大師謚号初也最澄者入滅後今年四十五年圓仁者入滅後今年當三年按同抄曰空海天安元年十月廿七日依真濟僧正上表贈大僧正御入定以後廿一年貞觀六年二月十六日依真雅僧正上表贈法印大和尚位御入定以後二十八年延喜廿一年十月廿一日依觀賢上表賜高祖大師号謚号弘法大師釋家官班記曰延長五年十二月廿七日圓珍謚智證大師矣慶安元年四月十一日以大僧

正天海謚号慈眼大師元祿五年十二月十二日以覺鉞謚号興教
大師元祿十年正月十八日以源空謚号圓光大師

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

官職知要卷之中終

官職知要卷下目錄



詔書

宣命

宣旨

姓氏并尸分別之事

勅書

口宣案

位記

官職知要下

詔書シヨウシヨ 敕書チヨウシヨ 宣命センメイ 之事

詔書 敕書 宣命といつゝはとりふ皆 綸命リンメイとして大内記

是と草案せしれと或ハ内記おと内ハ辨是と草とられ

然して 奏聞ソウブンしなれハ 獻覽ケンランしつて、ま時乃年号

月日れあつゝ其當日と聖翰セイカンとして、つらぐへふふ是代

御畫ミエとや或ハ奎畫ケイカととてありと凡 詔 敕ハ以漢文

これとせしもの 宣命ハ以和文をあらしたまふと也

或記曰 詔書 敕書といふらハ西へく尺二寸のつりを書

施行せしむる事^ニて^ハ仰^ルり 宣命 伊勢八幡紙 賀茂松尾ハ

紅梅紙八幡其外諸社 宣命以下皆黄紙也 色同く公家のみこのり^ト仰^ル

あり^ト也或ハ諸社 宣命或ハ諸節會 宣命^ハふ^ク

あり^ト 詔書ハ諸卿^ハみ^テわ^ケく 覆奏^トして 諸卿各

連署^シして年月日とあり^テて^ニし^ハ 奏^園し^テあ^へて

宸翰^とり^つく其年号の左乃^ハふ^シ可字と^カく^レめ

給ふ^ト云^ク 敕書も同^ク但^シハ御畫^一給^ハら^レる

之^ハ仰^ルり^ト是亦覆^テ奏^ル儀^ハ仰^ルり可^シ字乃^ハ御儀 詔書^ハ

同^クと謂^フ臨時^ノ大事^ト詔^ハ尋常^ハ小事^ト 敕^ハん

と^リ凡^ク 詔 敕^ハ上卿奉^テ 敕^ハ仰^ル内記^ハ令^テ作^ラ之^ニ上卿^ハ令^テ持^テ内記

奏^ス之^ハ有^ク 獻^シ覽^シ令^テ書^キ其日^ハ返^シ給^フ上卿^ハ著^テ本座^ニ召^テ中務^ハ輔^若丞^於於^テ軾^下

給^フ之^ハ其有^ク御畫^者留^テ中務省^ニ爲^シ案^別寫^シ一通^ハ年号^之奥^ニ各記^ス

署^加宣奉行^字即送^テ太政官^官連署^{官書記外}而覆^テ奏^ス之^時令^テ

書^可字返^シ給^フ官留^之爲^シ案^更寫^シ一通^ハ詔^訖施行^ス一^クふ^ト丸^ト

其古案大概とあり^トの^ミ

○詔書

二條前后復本位詔

詔朕以菲^ヒ虚^キ忝^ニ嗣^ト鴻業^思施^テ德義^之政^以致^テ治理^之風

元慶皇后在昔停激號稱前皇太后椒庭之月長閑芝
砌之霜多改未及渙汗早斷德音往事在耳 朕猶
慟焉故追復本號以慰芳魂青苔故宮縱無增光於兩
露之影白楊荒塚庶更變風於山陵之聲普告天下俾
知 朕意主者施行

天慶六年五月廿七日 御畫

敕書

答忠仁公准享食邑千戶辭二千戶并隨身

等表勅

勅功多者賞厚先王之通規德茂者位尊往哲之彝訓是
故蒼精既著增高於曲阜之基朱火以光加映於博陸之
地爰及本朝亦有舊典皆迹存於鈔繫事約於緹蒸太政
大臣外祖父藤原朝臣風槩沉遠器度淹凝摘騰之寄攸
歸據計之任是重 朕自在襁褓賴其保生義為君臣恩
過父母蓋有不世之功須受非常之寵而鳴謙在心底損無
已躬行顯著之績春秋繁茂成降崇之典歲月寂莫今
朕已得成人大臣頽齡漸暮若遂培多之美不崇加異

之章則恐當時後代將歸謗於朕躬夫太政大臣法當食邑三千戶及隨身兵仗國有成式又准三官給年官給

先帝之恩寵也至于封邑固讓二千准享千戶隨身等事皆辭不受朕以祿法所當古賢不辭既能有其功居其位

何不食其祿增其威然則所辭封邑等事乖元老崇班之義非國家褒飾之心故今敢踰法唯盡其所當宜其封戶

全食三千以內舍人二人左右近衛各一人為其隨身之兵又給帶仗資人三十人年官准三官事亦當奉導先帝之

遺詔又大臣所保官爵皆是先朝之寵章也於朕之時無一加益仍欲增一位之餘階而深忌尤極固自遜辭

朕不敢違全其冲挹斯亦屈已之志成人之美也普告遐邇令知朕意主者施行

貞觀十三年四月十日 御書

右 詔書 敕書有中務省及太政官連署等略于此左如位記之連署蓋後世有無不知矣

○宣命

天皇我詔旨止掛畏岐伊勢乃度會宇治乃五十鈴乃河上

宣命

乃下津磐根介大宮柱廣敷立高天乃原介千木高知天
 天皇孫乃尊乃稱辭竟奉留天照太神乃廣前介恐美
 恐美申賜止申サ久常毛奉留九月乃神嘗乃大幣帛手
 王大監物從五位上興我王中臣神祇大祐正六位上大中
 臣朝臣常道乎差使大忌部神祇權大祐正六位上齋部
 宿禰高善加弱肩介太繼取懸持齋波利令持捧天奉
 出賜布此狀乎聞食天テ天皇朝廷乎實位無動久夜守日
 守介護助賜止倍申賜止波久申ス
 年号月日御畫

官位消息 宣下之事 口宣案 位記 宣旨

或曰後世叙位除目の事なりはるるのへは消息 宣下とて口
 宣めく 宣下し給ふとあり第一卷百官盃觴篇にあり
 しぬくりくハ略しとく只其古案とあるは乃と

口宣案

先達曰職事奉 勅以宿紙書之上卿のりとてまう
 是と口宣案とあり又位階の口宣案一通假令宣叙
 從五位下とあり各端作裏と口宣案とあり

或稱号
上卿中納言

慶安一年十二月一日 宣旨

藤原名字

宜任攝津守

藏人右中辨藤原奉

けり宣案上卿うけとてまうりて官乃方ハ大外記の
 りく人 宣旨可令下知之由一通ありと位階カキれ方は
 大内記の許へ位記可有下知之由一通ありと又
 僧官位ハ友位とて官務乃方へ 宣旨可令下知
 之由一通ありと各それくはるのへらる中也
 又上人号香衣カキの事ハ女房奉書 并御教書
 として被成下ありと此等乃後ハ此書に略して
 載セざりとのなり

○宣旨

官職知要下

從五位下藤原名字

正三位行權中納言藤原朝臣名字

宣奉人敕件人宜令任

攝津守者

慶安年月外記兼掃部頭造酒正直講原名字

上卿の下知と受けし由
り外記強紙よそと
そのつとあり

又太内記上卿乃下知と受けし位記とせし人の終入
其躰左のあり

藤原名字

右可從五位下

中務恪勤而

可依前件

主者施行

慶安二年一月一日

無品中務卿一親王宣

正四位下行中務大輔臣藤原朝臣一奉

正五位下行中務少輔臣中原朝臣一行

今按公式令曰中務卿若不在即於太輔姓名下注宣少輔姓名下注奉行太輔又不在於少輔姓名下注宣奉行云

正二位行權大納言臣 名字

正二位行權大納言兼右近衛大將臣 名字

從二位行權大納言臣 名字

此次當官大納言五人各連署アリ

正三位行權中納言臣 名字

正三位行權中納言臣 名字

此次當官中納言七人各連署アリ

權中納言從三位臣、一等言

制書如右請奉

制附外施行謹言

慶安年一月一日

制可

月晨時正五位上行大外記兼掃部頭造源辨中原朝臣、

關白從一位朝臣

太政大臣關

從一位行左大臣朝臣

右大臣正二位朝臣

內大臣正二位行左近衛大將朝臣

二品式部卿、親王

從四位下行式部權大輔、

從四位下行右大辨、

告藤原、奉

制書如右符到奉行

從五位上行式部少輔、

慶安年一月一日

六錄

少錄

少錄

○朝臣
姓氏并尸分別之事

藤原	良峯 <small>ヨシノミ</small>	南淵 <small>ミナブチ</small>	高橋	菅野	雀部 <small>ササヘ</small>	山	笠 <small>カサ</small>	柿本
源	大江	賀陽 <small>カママ</small>	官道 <small>カミミチ</small>	秋篠 <small>アキノ</small>	滋野 <small>シノ</small>	栗田	大神 <small>オホカミ</small>	道守 <small>ミチノリ</small>
平	在原	三善 <small>ミヨシ</small>	小野	和氣 <small>ワケ</small>	安倍 <small>アヘ</small>	百濟 <small>ヒヤクサイ</small>	高麗 <small>コリア</small>	山口
橘	紀	貞 <small>マコト</small>	令宗 <small>ヨシムネ</small>	林	清科 <small>キヨシカ</small>	和 <small>ワ</small>	廣根 <small>ヒロネ</small>	石上 <small>イソカミ</small>
大中臣	高階 <small>タカシナ</small>	巨勢 <small>コセ</small>	大藏	佐伯 <small>サイキ</small>	伴 <small>トモ</small>	菅生 <small>スカウ</small>	采女 <small>ウメノメ</small>	高圓 <small>タカマ</small>
菅原	中臣 <small>ナカトミ</small>	大枝 <small>オホエダ</small>	惟宗 <small>ヨシムネ</small>	賀茂	内藏 <small>ウチソウ</small>	伊勢	宗形 <small>ムネカタ</small>	池田

住吉 池原 阿閉 山上 星川 石川

田口 櫻井 角 阿保 多米 長岡

春原 三原 永原 掠垣 荒城 淡海

阿倍 布勢 朝野 寔人 甲能 葛城

掃守 讚岐 坂本 大宅 朝宗 水取

滋原 嶋田 伊統 綾 長統 家原

善茲 春澄 坊本 春 葛原 御室

朝原 忠宗 御春 經通 安部 弓削

平野 中原 都努 善淵 飯高 上道

春日 宗岳 立野 久賀 鳥取 高野

犬上 吉備 下道 箭口 多 御使

玉手 八多 官處 佐味 大野 高向

田中 川邊 岸田 久米 御炊 許曾倍

和安部 上毛野 下毛野 大春 石村部 中島宜

中臣能凝 若櫻部 平群 平群文堂 上毛野 巨勢被田

豊原 箕 丹波 平群 上毛野 巨勢被田

清原 文室 息長 山道 三國 路

眞人

漢人	宿禰	朝原	甘南備	為奈	成相	吉野	香山	守山
吳漢	多治比	坂田酒人	御原	嶋根	氷上	蜷淵	飛鳥	飛鳥
井原	井上	息長丹生	槻田	大和	坂田	笠原	飛鳴	飛鳴
東部	三嶋	宗形	多治	嶋	為名	登美	英多	英多
張	滋岡	高向	清篠	淡田	豊野	四止	大原	大原
長峯	秋篠	大坂上	酒介	登見	酒人	當麻	豊國	豊國

秦	文部	各務	榎井	能登	矢俣田部	栗前	安	常世
高志	雀部	三宅	十市	八戸	御立	石内	浅井	凡海
清世	春道	小長谷	官原	田使	大友	長我	新家	羽束志
額田	太	豊岡	井上	錦	羽栗	伯耆	磯部	大早
大秦	大國	清田	達部	神田	長部	朝東	伊賀	小治田
良枝	大仁	神	若湯坐	志賀	伊岐	御野	清岡	栗

官職次第

縣主	山城	寺	上旬	美麻那	石城	日置	高田	有道
常澄	服部	奈美	三池	勝	竹田	長	稅部	田邊
高長	生夷	我孫	飛鳥部	ト部	縣大養	宗岡	丸太	吉志
金刺	清井	麻績	村主	佐太	石作	藏人	掃守	鳥井
櫻嶋	漆	守保	麻田	刑部	灘波	酒波	安名	凡部
美	若江	坂合部	河内	御船	生池	長尾	服	五百水部

民	當世	猪	漢部	國	船木	播美	高市	珍
吉身	上村主	越智	大石	縣	鞆	委文	大鹿	中野
海	安曇	石野	品治	葛井	阿刀	大田部	倉橋部	三津
椿部	丹生	狛	清内	日下	金集	津伊福部	建部	甲可
榎本	椋橋	坂上	尾張	滋善	八木	守部	直	的
巨智	若狹	深根	春日戸	津守	守	私	間人	忍海

吉川

調

磯上

武藝津

上

船

道

高安

綾部

出雲

渡津

土師

善世

丹波

桑名

文山

小槻

酒井

日下部

桑原

語

滋生

播磨

丹比

川合

文

大縣

伊香

吉侯

六人部

安都

澁川

板持

依智

秦

美努

狩

伊水

石粟

神服

志貴

三野

戒垣

真髮部

葛木

赤坂

新井

宇島

池上

物部

宇治

夫田部

春米

水

入間

佐為

中科

雁高

高丘

山田

榮井

吉井

大和

額部

大伴

大田

大秦公

齋部

玉祖

谷

布留

海大養

酒人

巫部

武生

畝火

檜原

平田

箭集

禰多造

新田部

依羅

三嶋

和介部

淨村

清宗

清宇

猪使

小子部

真神

若大養

高村

中臣

田部

祝部

○連

他田

大私

津保江

槻本

志太

散吉

舎人トナリ

桃原

中臣

藍アイ

風早カサマ

生江イナガ

大鳥オホトリ

河瀬

山前ヤマキ

若倭ワカヤマト

山河

爪工ツメクシ

弘世ヒロヨ

孔壬部

大井

長背ナカセ

忌部イミヘ

中跡ナカアト

蓼原タテ

物部

肩野カタ

柏原カハ

柴垣

葛野カト

大貞オホサタ

曾祢ソノネ

中臣高良ノタカラヒ

平岡

川跨カワタ

評

貞神

畝尾ウヂノ

田曾祢

中臣表ウチノ

中臣方岳カタラフ

中臣志斐シヒ

殖粟エシ

中村

中臣大家

額部湯坐ヌケノ

津大江

吉水

御笠ミカサ

出水イツミ

福當イシタ

志我閑シカタク

長野

次田ツギ

身人部ミナト

湯母竹田

竹田川邊

廣津

清道

錦部ニシノリ

廣井

檜前ヒノ

榎室エノムロ

塙

丹比須布

長谷置始ハセノ

忍坂ニシサカ

櫻田

野實ノア

高槻ツギ

廣田

神前カンサキ

筑紫チクシ

宇努ウノ

今木イニキ

巨椋フクラ

竹原

伊吉イキ

神麻績カンマニ

佐良サラキ

廣階ヒロノ

平松

高篠タカノ

狹山サカ

志悲シヒ

蜂田ハチ

殿來トノキ

韓國カラクニ

宇遲ウチ

不破

廣海ヒロウミ

春野ハルノ

神努カヌ

中臣大田

鳥見

高室

物部モノベ

中臣酒屋ノサカマ

村山

高道

春井ハル

松野

八清水ヤシ

物集モノツメ

日奉ヒムツリ

岡

大椋置始オホノ

雄儀

小山コヤマ

門部

馬工ウマクシ

熊野クマノ

吉田

阿曇大養アトノ

栗栖 山田 勇山 中臣葛野 宇治山寺 網津守

棕 河原 野上 贄土師 新城 子部

高志壬生 中臣栗原 屋 道田 黃文 與等

佐伯日奉 高市 家内 仲九子 若倭部 楊津

安勅 棕椅部 小家 三枝部 額部 留 中臣宮處

鹽屋 原井 長背 石津 物部 韓國 根阿倍志悲

大伴山前 止美 秦長藏 中臣東 下家 矢集

男牀 水海 伊豫部

安那 牟義 岡屋 羽咋 酒部 別

三林 荒々 牟佐吳 佐自努 市往 三間各

鏡師 壬生部 息長 竹原 石邊 稻城壬生

車持 輕我孫 吳 堅井 佐代 川俣

豊階 豆良 佐々貴山 垂水 阿閉門人山 廣幡

廬原 首 下養 多々良 廣來津 川原

榛原 壬生 丸子 角山 牟禮 肥氣多

石生別 金

首

公

和田	高家	橋椅部	猪耳	鷄甘部	志紀
半古	尋來津	原	蝦舌部	羽束	鞆編
度守	布師	部家	苑部	韓海部	大戸
和山寺	掃守田	葦田	村舉	櫻野	辟田
民使	信太	御手代	大家	川上	園人
江	生田	安幕	大市	清水	貞神田
長柄	河内民	近義	川枯	白堤	船子
布忍	菅田	佐夜部	蘆宜部	井代	津門
阿禮	錦部民	松津	小豆	青海	二見

○臣

住道	新木	郡	清海	番長	酒
佐野	錦民	佐波部	内关	神門	川邊
川	英保	牟義部			
池後	伊蘊志	膳	穂積	田々内	巨勢斐太
葦占	内田	會加	他田廣瀨	紀辛梶	出庭
早良	巨勢滅田	音太郎	真野	宇自可	内
標井	和安部	葉栗	阿支奈	金	暖椿
三尾	大前	武射	埋田		

造

韓矢田部

幡文

忍海

部大丘

大炊刑部

八坂

奈美私

櫛代小橋

高野

波多門部

若櫻部

高井

工

奄智

神私

茨水

官部

大庭

波多

日根

薦

宇努

御池

粉田

長倉

取石

矢作

豊津

薦集

朝妻

豊村

坏作

海原

杖部

呉服

高安

神宮部

伊部

積組

糸井

衣縫

輕部

猪名部

直

大村

等彌

尾津

池邊

火撫

大田祝山

臺

祝

大坂

但馬海

浮穴

津嶋

荒田

壹伎

水主

吾川

朝倉

忌寸

淨山

嵩山

榮山

大津

大山

大岡

高尾

山村

倭川原

長國

清川

新長

當宗

石占

貞根

真上

財田

縣主

緋口 添 志紀 鴨 賀茂 大志貴

○村主

錦織 牟佐 穴大 下 高安下 葺屋

古市 志賀穴大

○使主

末 和藥 小高 長田 穴師 後部藥

恩智

○雜 此尸不審

人 神 大角集 伯太首神 葺屋漢 河原藏

日置藏 國背完 池上棕 川内漢 高漢 拍

凡 韓

○伊美吉

倉門部 國不見 文池邊 狩

○史

嶋岐 朝明 沙田 楊胡 竹志 巳汶

道祖 大里 武丘 亮 真城

○勝

上 木 奈美 酒中 宮

部

上

秦人

葛原

小子

阿刀

納石作

吉彌侯

雜田

鴨

丹比

日置

坂戸物

三富

西泥土

祝

狗染

園

鷹養

相觀物

真髮

紀

二田物

納部物

音太

尾張

榎井

氏

半毘

吉

賈

加羅

面

堅祖

吳

筆

汶斯

阿祇奈君

伊我水取

忌弄

大小見

目色部真時

猪養

都保

史戸

阿多御手養

三祖

凡人中家

田井

三川具

大石椅立

笛吹

波多祝

大田史

陽侯

狗人野

武佐

時原

千部

勝大伴

齋部

大私部

神主

大辟

三並

荒良

物部聞

三歲祝

良階

踰部大炊

長我孫

加良姓

慕原

氷津

任那

惠我

額田部

瓊王

百濟

伎彌

角鹿

後部高

能彌

日佐

調金

大石林

大村直田邊	新良貴	且部	日吉	伊氣	子部	已智	阿多隼人	蝦部
若小見	蜂田藥師	武美部	野中	帶王	秦姓	紀祝	鴨部祝	足奈
縣使	波多部	布等	陸奥	村禮	勝部	小谷	朝戸	伯禰
不知山	水合	御長	和久	大辛	宇佐	巨知	及主	玉井
國瀨	市井	置始	川瀨	藤井	川間	高用	伏丸	山守
温義	井於伊豆	道嶋	有麻	小長谷	下神	伍渡	伊豆	真尻家

○無尸姓

各務	品治	鷹取	度會	倉垣	大賀良便	嶋	良	鷹取
風早	遠澤	鷹取	神主	高屋	岳屋	聿	原	梯守
早可	漆嶋	鷹取	荒木田	宗安	綺	郡	土	大石橋立
吉身	尾寒	鷹取	祝部	秦冠	火	高	都	
鷹取	凡部	鷹取		豊岳	工	勾	玉	
帶玉	十市	鷹取		豊	倭	縣	膳	

官職知要卷下終

都保	牟久	内原	浮穴	國不見	赤漆
穴太	沙田	公子	城上	鞞連	美努
御浦	不知山	五百井上	財長	咍	良
貞	都	下			

享保三年桂秋穀旦

寶曆九己卯年

孟春吉日求板

京極堂書林

著屋勘兵衛
 山田三郎兵衛
 秋田屋伊兵衛
 白木屋半右衛門
 長濱屋九郎右衛門
 水田太助
 菱屋新兵衛
 菊屋長兵衛

